



誤薬防止支援システム『誤薬チェッカーPro』

使い方ガイド

本書は製品の近くに置いてご活用ください。誤薬チェッカーPro アプリ操作に関する説明をしています。

誤薬チェッカーPro とは 5

機能と特徴 6

QRコードの作成 9

お薬チェック 12

食事チェック 47

ネットワーク接続 58

顔写真の管理 70

対象者の顔認証 76

読み取りログの管理 83

設定画面リファレンス 93

目次

誤薬チェッカーPRO とは	5
服薬時の課題.....	5
誤薬チェッカーPRO を使った服薬の流れ	5
機能と特徴	6
配薬 QR コード読み取り	6
配食 QR コード読み取り	6
顔写真表示.....	6
名前読み上げ機能	7
ネットワーク管理機能	7
薬包に印字した QR コードの読み取り	7
服薬対象者の顔認証	8
ログ・統計情報表示	8
訪問介護の現場でも利用可能	8
QR コードの作成	9
QR コードの内容	9
QR コードの種類	10
QR コードの作成	10
分包機で印字された QR（バー）コードの読み取り.....	11
読み取り可能な QR（バー）コードのタイプ	11
お薬チェック	12
お薬 QR コード読み取りの流れ	12
お薬 QR コード読み取り画面	13
カメラへのアクセスの許可	14
お薬チェックモードの切り替え.....	15
介護者情報の設定	16
お薬チェック QR コードの読み取り.....	17
お薬チェック読み取りシーケンスの変更	19
分包機で印字された QR コードの読み取り	22
服薬対象者の ID 情報設定	22
分包機で印字された QR コードの開始／終了桁数設定	26
分包機で印字された QR コードの読み取り順序設定.....	27
分包機で印字された QR コードのお薬コードの設定	28
分包機で印字された QR コードのお薬時間の設定	30
読み取る QR コードフォーマットの指定	31
頓服（頓用）薬の指定方法	32
時間設定による頓服（頓用）薬の指定方法	33
薬局／分包機コード	35

薬局／分包機コードの設定	38
薬局設定のダウンロード	40
施設設定のダウンロード	41
NG 理由／中止理由入力	42
食事チェック	47
食事の QR コード読み取りの流れ	47
食事チェックモードの切り替え	48
食事チェック QR コードの読み取り	49
食事チェック読み取りシーケンスの変更	51
配膳食種別の QR コード読み取り	54
配食対象者の食事種別情報設定	55
ネットワーク接続	58
利用可能なサーバ方式	58
WINDOWS 共有フォルダ接続設定	59
WINDOWS 共有フォルダ接続確認	60
NAS (NETWORK ATTACHED STORAGE) の使用	61
ネットワークへのアクセスの許可	62
クラウドサーバ接続設定	63
クラウドサーバ接続確認	64
SSH (SCP) サーバ接続設定	66
SSH(SCP)サーバ接続確認	68
顔写真の管理	70
顔写真表示	70
カメラ機能	70
画像ファイル管理	72
写真データのアップロードとダウンロード	73
アップロードデータの切り替え	74
写真データの確認	75
対象者の顔認証	76
服薬、配食対象者の顔認証	76
顔認証写真データの撮影方法	78
顔認証データの作成方法	80
顔認証利用方法	81
読み取りログの管理	83
ログ表示画面	83
GPS で取得した位置情報の表示	84
位置情報使用の許可	85
サーバを使ったログデータの管理	86
統計情報の表示	88

配薬／配食／ユーザ定義日付の統計情報	89
配薬／配食／ユーザ定義対象者の統計情報.....	90
配薬／配食／ユーザ定義介護者の統計情報.....	91
統計情報設定	92
設定画面リファレンス.....	93
QR コードの読み取り設定	93
データ転送設定	110
WINDOWS サーバ.....	111
クラウドサーバ	113
SSH(SCP)サーバ	115
システム設定	117
情報	120

誤薬チェッカーPro とは

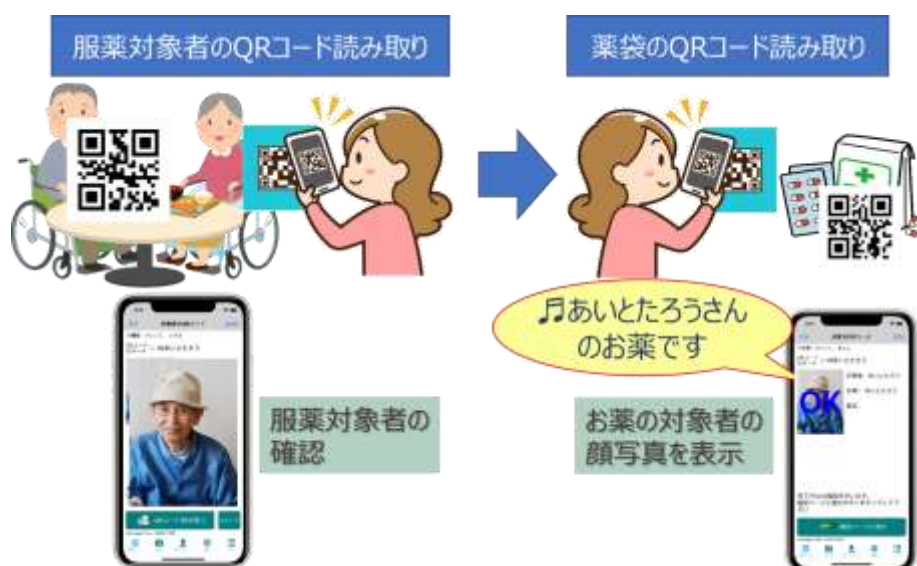
『誤薬チェッカーPro』は QR コードと iPhone 端末を利用した、誤薬防止支援システムです。介護施設における服薬介護の誤薬トラブルを解消し、介護者の負担を減らします。

服薬時の課題

介護施設における服薬介護での誤薬の問題は最も重要な課題です。ダブルチェック、トリプルチェックと手間とリソース（人員）をかければ、誤薬のリスクを減らすことは可能ですが、介護コストに大きく影響を与えます。誤薬チェッカーPro を用いることで、手間とリソースを抑えながら、誤薬トラブルを解消し、介護コストの削減を実現することが可能です。

誤薬チェッカーPro を使った服薬の流れ

- 介護施設で使用する iPhone 端末に誤薬チェッカーPro アプリをインストールしておきます。
- 服薬時、薬袋に張り付けた QR コードを、誤薬チェッカーPro アプリを使って読み取ります。この時、服薬対象者の顔写真が表示されます。
- 服薬対象者の QR コードを、誤薬チェッカーPro アプリを使って読み取ります。
- 服薬対象者の薬で間違いがなければ、音声メッセージと画面で介護者にお知らせします。服薬対象者が異なる場合は、バイブレーション、音声メッセージ、画面表示で間違いであることを介護者に伝えます。



服薬間違いがあった場合は、介護者に対して、視覚、聴覚、触覚に働きかけることで誤薬の防止につながります。

機能と特徴

配薬 QR コード読み取り

QR コードによる配薬管理が可能です。

QR コードの読み取り順序は、自由に設定可能です。
もちろん3点（対象者、お薬、介護者）チェックにも
対応しています。



配食 QR コード読み取り

QR コードによる配食管理も可能です。

対象者の QR コードだけでなく、糖尿病食や高血圧食
などの配食種別による管理も可能です。

顔写真表示

QR コード読み取り時、服薬対象者の顔写真を表
示することができます。名前だけでなく視覚的に確
認することができ、誤薬の防止につながります。

顔写真はアプリ内のカメラ機能により、撮影可能で
す。



名前読み上げ機能

服薬対象者の名前を音声メッセージでお知らせします。聴覚的に確認することで、誤薬の防止につながります。

又、QRコード判定時にはアラーム音と音声メッセージでOK/NGの判定を通知し、NGの時はバイブレーションでQRコードが違うことをお知らせします。



ネットワーク管理機能

Windows 共有フォルダ、クラウドサーバ、SSH (SCP) サーバに対応しています。

施設内で Windows 共有フォルダを用意することにより、施設内の閉じたネットワークで、顔写真データやログ情報を共有することが可能です。

薬包に印字した QR コードの読取り

分包機に印刷された QR コードの読み取りも可能です。QR コードの情報から服薬対象者の間違いだけでなく、服薬対象日や服薬時間の間違いも検出することが可能となります。

誤薬チェッカーPro は、これらの情報を用いて誤薬防止の精度を上げることができます。

QR コードだけでなく様々な種類のバーコードにも対応しています。



服薬対象者の顔認証

服薬対象者に QR コードを持たせることができない場合には、服薬対象者の QR コードを読み取る代わりに顔認証を用いて本人確認を行うことができます。

服薬対象者に QR コードを持たせる事ができない場合でも、顔写真で本人の判定が可能です。

※顔認証を利用する場合は、クラウドサーバーオプションが必須となります。



QRコードの代わりに
AIが顔写真で判定



ログ・統計情報表示

QR コードの読み取り情報や比較結果をロギングします。過去の履歴をまとめて知ることができます。

サーバにログデータを転送することも可能です。サーバでは、CSV 形式で保存されるので、Excel など他のアプリケーションとの連携も簡単です。

年月日毎の統計情報や対象者毎の統計情報を知ることができます。

訪問介護の現場でも利用可能

GPS を用いた位置情報のロギングが可能です。

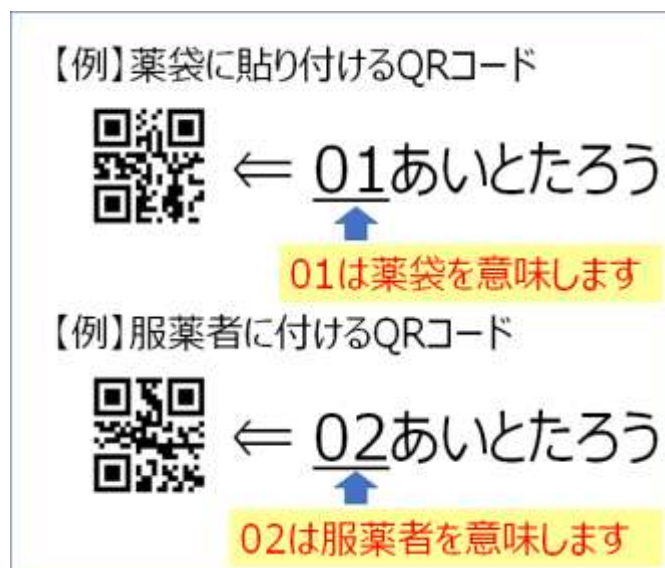
配薬時の位置情報をログすることで、訪問介護、訪問看護における配薬管理に利用可能です。



QR コードの作成

QR コードの作成方法を示します。

QR コードの内容



QR コードの内容は、（数字 2 桁）＋（名前）で構成されます。

例：01 あいとたろう

数字 2 桁部分には読み取り対象を分類する数字を決めて割り当てます。

例：薬袋に貼り付ける QR コード ⇒ 01

服薬対象者の QR コード ⇒ 02

名前部分は簡単な漢字であれば読み方を認識して音声メッセージが出力されますが、難しい名前だと正しい読み方を認識しない場合があります。ひらがなで入力することを推奨します。

（数字 2 桁）＋（名前）のフォーマットは以下の形式から選択できます。

- （2 桁半角数字）＋（全角名前） 例：01 あいとたろう
- （2 桁全角数字）＋（全角名前） 例：0 1 あいとたろう
- （2 桁半角数字）＋（半角空白）＋（全角名前） 例：01 あいとたろう
- （2 桁全角数字）＋（全角空白）＋（全角名前） 例：0 1 あいとたろう
- （2 桁半角数字）＋（全角空白）＋（全角名前） 例：01 あいとたろう
- （2 桁全角数字）＋（半角空白）＋（全角名前） 例：0 1 あいとたろう
- （半角数字のみ） [数字⇄名前変換機能を使う場合] 例：12345678
- （全角数字のみ） [数字⇄名前変換機能を使う場合] 例：1 2 3 4 5 6 7 8

名前部分の姓と名の間に空白文字を入れても正しく認識しますが、空白を入れた名前と空白を入れない名前は異なる名前として認識します。姓と名の間に空白を入れる/入れないは全体で統一する必要があります。

01 あいとたろう

⇐ （異なる名前と判定）⇒

01 あいと たろう

QR コードの種類

誤薬チェッカーPro で読み取る QR コードの種類として以下のデータが定義されています。

種類	(数字 2 桁)	利用書
対象者	0 2	対象者を示す QR コードです。
お薬 1	0 1	お薬に張り付ける QR コードです。
お薬 2	0 3	お薬に張り付ける QR コードです。
お薬 3	0 4	お薬に張り付ける QR コードです。
お薬 4	0 5	お薬に張り付ける QR コードです。
食事	1 1	配膳食に張り付ける QR コードです。
確認	2 1	システムで利用する ID です。QR コードとしては利用できません
介護者	3 1	介護者の QR コードです。
定義 1	4 1	独自に定義する QR コードです。
定義 2	4 2	独自に定義する QR コードです。
定義 3	4 3	独自に定義する QR コードです。
定義 4	4 4	独自に定義する QR コードです。

画面に表示される種類や数字 2 桁の値は自由に変更可能です。

QR コードの作成

QR コードは誤薬チェッカークラウドや QR コード作成サイトを利用すれば、簡単に作成できます。自由（入力）テキストで QR コードを作成します。誤薬チェッカークラウドを用いた QR コードの作成は『誤薬チェッカーPro クラウドアクセスガイド』を参照下さい。

- ・QR コード作成サイト／無料版 (<https://qr.quei.jp/text.php>)
- ・CMAN インターネットサービス (<https://www.cman.jp/QRcode/>)



- ①PC やスマホで QR コード作成サイトを利用して QR コードを作成します。
- ②作成した QR コードをシール台紙に印刷します。
- ③印刷した QR コードを適当な大きさに切り取り、対象物に張り付けます。

分包機で印字された QR（バー）コードの読み取り

分包機で印刷される QR（バー）コードのデータフォーマットが判れば、直接 QR（バー）コードを読み取ることが可能です。



0000000113,2022/03/01,0068,

服薬対象者の ID 情報

服薬対象日

服薬タイミング

読み取ったバーコードや QR（バー）コードの情報から服薬対象者の間違いだけでなく、服薬対象日や服薬時間の間違いも検出することが可能となります。

分包機で印刷される QR（バー）コードの読み取り方法は、お薬チェックの「[分包機で印刷された QR コードの読み取り](#)」を参照願います。

※薬包への QR（バー）コードの印字可否、印字された QR（バー）コードのデータフォーマットに関しては、提携している薬局様へご相談下さい。

読み取り可能な QR（バー）コードのタイプ

誤薬チェッカーは以下のタイプの QR（バー）コードの読み取りに対応しています。

2次元	QRCode、DataMatrix、PDF417、AZTEC
バーコード	EAN8、EAN13、UPCE、Code39、Code39Mod43、Code93、Code128、Interleaved2of5、ITF14

お薬チェック

お薬の QR コードを読み取って服薬時の間違いがないか判定を行う方法を示します。

お薬 QR コード読み取りの流れ



お薬 QR コード読み取りの流れを以下に示します。

お薬 QR コード読み取りはホーム画面から始まります。お薬チェックを開始すると、読み取り開始状態に遷移します。最初に対象者の QR コードを読み取ると、読み取り結果が表示されます。次にお薬の QR コードを読み取ると、読み取り結果の画面に判定結果が表示されます。

引き続き、次の対象者の QR コードを読み取る場合は、読み取り開始状態に遷移し、同様に対象者の QR コード、お薬の QR コードを読み取ります。

全ての対象者のお薬チェックが完了すると、ホーム画面に遷移することで、モード切り替えが行えるようになります。

シーケンス：一人の対象者の読み取り開始状態から最後の読み取り結果までの流れ

モード：お薬チェックを開始して全ての対象者の読み取りを完了し、お薬チェックを終了するまでの流れ

※モード切り替え画面は、ホーム画面からしか遷移できません。QR コード読み取りシーケンス中、モード切り替えはできません。

お薬 QR コード読み取り画面

お薬 QR コード読み取り画面を以下に示します。



- ①シーケンスの開始と終了を行うボタンです。
- ②シーケンスが開始すると、ボタンが有効となります。シーケンスの次のステップの開始を行うボタンです。
- ③タブメニューです。「QR コード読み取り」、「カメラ」、「ダウンロード/アップロード」、「設定」、「ログ表示」を切り替えます。いつでも切替可能です。
- ④通常時のナビゲーションバーの背景色はグレーですが、ネットワークに接続するとブルー表示となります。
- ⑤GPS による位置情報読み取りが有効の場合に表示されます。アイコンをタップすると位置情報を表示します。
- ⑥お薬の読み取りの進捗状況を表示します。アイコンをタップすることで詳細情報を別画面で表示します。
- ⑦QR コード読み取り画面です。QR コードを認識すると読み取り結果画面に遷移します。
- ⑧戻るボタン。一つ前のステップに戻ります。
- ⑨介護者の名前を表示します。
- ⑩読み取った QR コードのデータを表示します。
- ⑪対象者の顔写真を表示します。
- ⑫シーケンス内の QR コード読み取り履歴を表示します。
- ⑬シーケンスの次のステップの開始を行うボタンです。
- ⑭お薬の QR コード読み取りはスキップすることができます。複数のお薬を設定している場合で服薬対象外のお薬はスキップボタンを使って配薬をスキップします。

カメラへのアクセスの許可

誤薬チェッカーPro アプリをインストール後、初めてカメラへのアクセスを行うと、アクセスの許可を求めるアラートが表示されます。



QR コード読み取りに使用するカメラへのアクセスを許可するには「OK」をタップします。

「許可しない」をタップすると、QR コードの読み取りが出来なくなります。

間違って「許可しない」をタップしてしまった場合は iOS の設定画面からカメラへのアクセス許可を設定します。



お薬チェックモードの切り替え

QRコードの読み取りモードを切り替えるには、ホーム画面で読み取りシーケンスが開始されていない状態

（**開始** ボタンが有効になっている状態）で画面下タブメニューの「**QRコード**」を**長押し**するとモード切り替え画面が表示されます。

※読み取りシーケンスが開始されている状態では切り替え画面は表示されません。



お薬チェック、**食事チェック**、**ユーザ定義** ボタンのいずれかをタップして（ここでは **お薬チェック** ボタンをタップ）モードを選択します。タップしたモードが有効になります。モード切替画面を終了するには、画面右上の[X]をタップするか、画面を下方向にスワイプします。

又、モード切り替え画面でお薬チェックを行う介護担当者の名前を入力します。**介護者設定** ボタンをタップして、介護者の名前を登録します。画面のキーボードから入力する他に、QRコードを読み取ることも入力可能です。

介護者情報の設定

介護者情報の読み取りを行う方法として、読み取りシーケンスを設定（「[お薬チェック読み取りシーケンスの変更](#)」参照）することで、対象者やお薬の QR コードを読み取る度に介護者の QR コードを読み取ることができます。

お薬のチェック中は、端末を介護者が専用で扱う場合は、チェック開始のタイミングで介護者の QR コードを読み取り、チェック終了まで介護者情報を保持することもできます。チェック開始のタイミングで介護者の QR コードを読み取るには、モード切り替え画面の **介護者設定** ボタンをタップします。

モード切り替え画面は、ホーム画面で読み取りシーケンスが開始されていない状態（**開始** ボタンが有効になっている状態）で画面下タブメニューの「**QRコード**」を**長押し**することで表示されます。

※読み取りシーケンスが開始されている状態では切り替え画面は表示されません。



チェックを行う介護担当者の名前を入力します。**介護者設定** ボタンをタップして、介護者の名前を登録します。画面のキーボードから入力する他に、QR コードを読み取ることも入力可能です。

「チェック終了時に介護者情報をクリアする」のスイッチを有効にすると、チェック終了時に保存した介護者情報をクリアします。複数の介護者で端末を共有する場合、このスイッチを有効しておく、チェック開始毎に介護者情報を入力することができます。

お薬チェック QR コードの読み取り

対象者のQRコード読み取り

お薬チェックを開始して、服薬対象者の QR コードを読み取るには **開始** ボタンをタップします。



 **QRコード読み取り** ボタンが有効となり、対象者の QR コードを読み取るには、 **QRコード読み取り** ボタンをタップします。カメラが起動するので、対象者の QR コードを画面に映すと読み取りが完了します。

対象者の QR コード読み取り結果が表示されます。



QR コードの読み取り内容、対象者の名前、顔写真が登録されている場合は顔写真が表示されます。

顔写真が登録されていない場合は以下の画像が表示されます。



顔写真の登録方法は「[顔写真の管理](#)」を参照下さい。

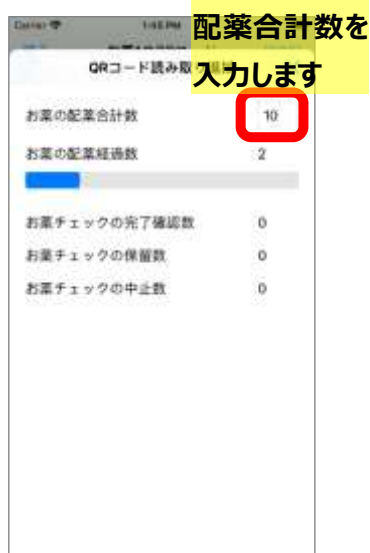
お薬のQRコード読み取り

対象者のQRコード読み取りに続いて、お薬のQRコードを読み取ります。



カメラが起動するので、お薬の QR コードを画面に映すと読み取りが完了し、判定結果が音声メッセージと共に表示されます。内容確認後、 **最初の画面に戻る** ボタンをタップしてホーム画面に遷移します。

又、画面右上の数字をタップすると、読み取りの進捗状況を確認することができます。



お薬の配薬合計数を入力しておくことで、現在の配薬経過数とその進捗度が進捗バーで表示されます。

お薬チェックの完了確認数、保留数、中止数は、読み取りシーケンスの中で完了確認を行った時の合計数を表示します。

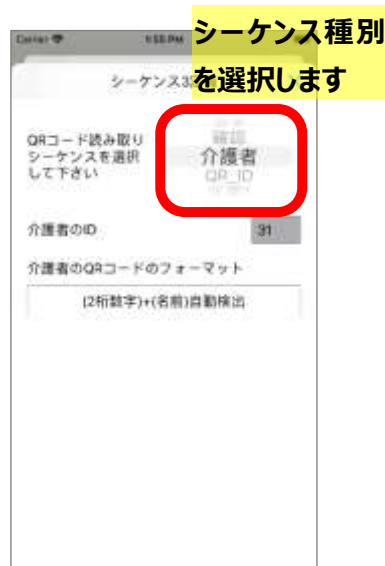
読み取りシーケンス中はいつでも、読み取りの進捗状況を確認することができます。又、その値はお薬チェックモードの開始 ( **お薬チェック開始** ボタンをタップ) した時にクリアされます。

お薬チェック読み取りシーケンスの変更

対象者とお薬の QR コードだけでなく、介護者や独自に定義した QR コードを読むことができます。又、その順序も自由に設定可能です。読み取りシーケンスを設定するには、画面下タブメニュー [設定] ⇨ [QRコード読み取りシーケンス] ⇨ **お薬チェック設定** ボタン ⇨ [設定したいシーケンス項目] の順にタップします。



シーケンス定義の設定画面が表示されます。ここで設定したいシーケンス種別を選択します。



シーケンス種別は以下の中から選択できます。

- 対象者 : 対象者の QR コード読み取り
- お薬 1 : お薬 1 の QR コード読み取り
- お薬 2 : お薬 2 の QR コード読み取り
- お薬 3 : お薬 3 の QR コード読み取り
- お薬 4 : お薬 4 の QR コード読み取り
- 食事 : 食事の QR コード読み取り
- 確認 : 完了確認を表示します。読み取り進捗状況に表示する
[完了] [保留] [中止] を登録できます
- 介護者 : 介護者の QR コード読み取り
- QR_ID : QRID (先頭二桁の数字) に従って種別を判定します。
- 定義 1 : ユーザ定義の QR コード読み取り
- 定義 2 : ユーザ定義の QR コード読み取り
- 定義 3 : ユーザ定義の QR コード読み取り
- 定義 4 : ユーザ定義の QR コード読み取り

お薬チェックシーケンス設定例 1

シーケンス	対象者	{2桁数字}+[名前] 自動検出
1	ID: 02	
シーケンス	お薬1	{2桁数字}+[名前] 自動検出
2	ID: 01	
シーケンス	介護者	{2桁数字}+[名前] 自動検出
3	ID: 31	
シーケンス	未定義	{2桁数字}+[名前] 自動検出
4	ID: 00	
シーケンス	未定義	{2桁数字}+[名前] 自動検出
5	ID: 00	
シーケンス	未定義	{2桁数字}+[名前] 自動検出
6	ID: 00	
シーケンス	未定義	{2桁数字}+[名前] 自動検出
7	ID: 00	
シーケンス	未定義	{2桁数字}+[名前] 自動検出
8	ID: 00	

シーケンスの第1ステップ：対象者のQRコード読み取りを行います。
 シーケンスの第2ステップ：お薬1のQRコード読み取りを行います。
 シーケンスの第3ステップ：介護者のQRコード読み取りを行います。

上図のような設定の場合読み取りシーケンスは以下のようになります。



- ※ 最大8個のシーケンス種別を設定できます。
- ※ 同一項目のシーケンス種別も設定できます。
- ※ 未定義の項目の1つ前でシーケンスは終了します。
- ※ 右図のような場合、シーケンス5は実行されません。

シーケンス	対象者	{2桁数字}+[名前] 自動検出
1	ID: 02	
シーケンス	お薬1	{2桁数字}+[名前] 自動検出
2	ID: 01	
シーケンス	介護者	{2桁数字}+[名前] 自動検出
3	ID: 31	
シーケンス	未定義	{2桁数字}+[名前] 自動検出
4	ID: 00	
シーケンス	お薬2	{2桁数字}+[名前] 自動検出
5	ID: 03	
シーケンス	未定義	{2桁数字}+[名前] 自動検出
6	ID: 00	
シーケンス	未定義	{2桁数字}+[名前] 自動検出
7	ID: 00	
シーケンス	未定義	{2桁数字}+[名前] 自動検出
8	ID: 00	

シーケンス3で終了し、
 シーケンス5（お薬2）
 は実行されません

お薬チェックシーケンス設定例 2

お薬チェック		
シーケンス 1	対象者	{2桁数字}+{名前} 自動検出
シーケンス 2	お薬1	{2桁数字}+{名前} 自動検出
シーケンス 3	確認	{2桁数字}+{名前} 自動検出
シーケンス 4	未定義	{2桁数字}+{名前} 自動検出
シーケンス 5	未定義	{2桁数字}+{名前} 自動検出
シーケンス 6	未定義	{2桁数字}+{名前} 自動検出
シーケンス 7	未定義	{2桁数字}+{名前} 自動検出
シーケンス 8	未定義	{2桁数字}+{名前} 自動検出

シーケンスの第 1 ステップ：対象者の QR コード読み取り

シーケンスの第 2 ステップ：お薬 1 の QR コード読み取り

シーケンスの第 3 ステップ：完了確認

上図のような設定の場合読み取りシーケンスは以下のようになります。



完了確認画面では、 **完了** **保留** **中止** ボタンが表示され、配薬の状況に応じてボタンをタップします。画面右上の数字をタップすると、完了、保留、中止それぞれの配薬数を確認することができます。

分包機で印字された QR コードの読み取り

分包機で印字された QR コードの情報を知らなければ、薬包に印字された QR コードを読み取ることができません。

一般的に、分包機で印字された QR コードには、服薬対象者を特定する ID 情報（数字の羅列）や服薬対象日、服薬タイミング（昼食食前、夕食食後など）の情報がテキスト情報として含まれています。



これらの情報を誤薬チェッカー-Pro に設定することで、分包機で印字された QR コードを読み取ることが可能となります。誤薬チェッカー-Pro は、これらの情報を用いて誤薬防止の精度を上げることができます。

- | | | |
|--------------|---|--------------|
| 服薬対象者の ID 情報 | ⇒ | 服薬対象者の間違いを検出 |
| 服薬対象日 | ⇒ | 服薬対象日の間違いを検出 |
| 服薬タイミング | ⇒ | 服薬時刻の間違いを検出 |

設定に関する詳細は、「[服薬対象者の ID 情報設定](#)」、「[分包機で印字された QR コードの開始／終了桁数設定](#)」、「[分包機で印字された QR コードのお薬コードの設定](#)」、「[分包機で印字された QR コードのお薬時間の設定](#)」、「[読み取る QR コードフォーマットの指定](#)」を参照下さい

※QR コードの内容は印字を行う分包機の設定で異なります。

介護事業者様で使用する薬包に分包機で QR コードを印字可能か、QR コードの内容に関する情報は、提携している薬局様へご相談下さい。

服薬対象者の ID 情報設定

服薬対象者の ID 情報から名前を特定するには、ID 情報と名前を紐づける情報が必要となります。端末ごとに入力することも可能ですが、複数の端末を設定する場合は、ID 情報と名前を記述した CSV ファイルをサーバからダウンロードすることで簡単に設定可能です。

端末ごとに入力する場合

服薬対象者の ID 情報を入力するには、画面下タブメニュー  ⇒ **お薬設定** ⇒ **ID 氏名ファイル設定** ⇒ **ID 氏名 CSV ファイルの編集** ⇒ ID 氏名データの確認画面左上 **[+]** の順にタップします。

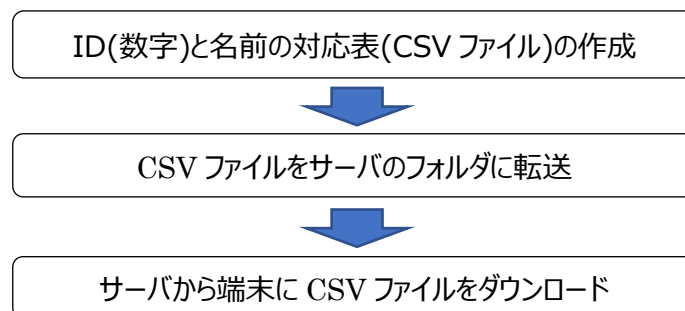


QR コードの ID に服薬対象者の ID を数字で入力します。
ID に対する氏名に服薬対象者の名前をひらがなで入力します。
画面右上の **[x]** で終了します。

[+] ボタンをタップして設定対象者全てのデータを入力します。

サーバからダウンロードする場合

ID 情報と名前をサーバからダウンロードして設定する場合は以下の流れになります。



ID(数字)と名前の対応表(CSV ファイル)の作成

```

0000000111,あいとたろう
0000000112,あいとじろう
0000000113,ゆやまたろう
0000000114,ゆやまじろう
0000000115,しすてむはなこ
:
:
:
  
```

パソコンのメモ帳やエクセルを使って、ID(数字)と名前の対応表を作成します。作成したデータを csv 形式(,(カンマ)で区切られたテキストファイル)で保存します。
ファイル名は”id_name.csv”で保存します。

※文字コードは shift-JIS で保存する必要があります。
Windows のメモ帳アプリやエクセルではデフォルトで shift-JIS で保存されます。

CSV ファイルをサーバに転送

作成した CSV ファイル (id_name.csv) をサーバの共有フォルダに保存します。(サーバの設定方法は『誤薬チェッカーPro サーバ設定ガイド』を参照下さい)。誤薬チェッカークラウドシステムを用いると、クラウドサーバ上で CSV ファイルの編集が可能です。

サーバから端末に CSV ファイルをダウンロード

設定メニューのデータ転送設定のプロトコル選択でデータ転送プロトコルを選択し、ネットワークに接続状態にします（「[ネットワーク接続](#)」参照下さい）。

画面下タブメニュー  ⇒ **「お薬設定」** ⇒ **「ID 氏名ファイル設定」** ボタンをタップし、ID 氏名ファイル設定画面から **「ID 氏名 CSV ファイルのダウンロード」** ボタンをタップします。一度ダウンロードを実行すると、サーバのファイルを更新するまではダウンロード不要です。又、アプリの起動毎や、開始ボタンの押下でダウンロードを実行することも可能です。



「起動時に ID 氏名ファイルのダウンロードを実行する」

アプリを起動時した時に自動で ID 氏名ファイルのダウンロードを実行します。

[システムオプション設定]の「起動時及び開始ボタン押下で更新データのダウンロードを実行する」オプションが有効な場合、このスイッチは無効になります。

「開始時に ID 氏名ファイルのダウンロードを実行する」

シーケンス開始時、**「開始」** ボタンを押下した時に自動で ID 氏名ファイルのダウンロードを実行します。

[システムオプション設定]の「起動時及び開始ボタン押下で更新データのダウンロードを実行する」オプションが有効な場合、このスイッチは無効になります。

分包機で印字された QR コードの開始／終了桁数設定

分包機で印字された QR コードの情報は印字を行う分包機の設定で異なります。そのため服薬対象者の ID 情報、服薬対象日、服薬タイミングの情報を取り込む桁数設定が必要となります。

服薬対象者の ID 情報、服薬対象日（年、月、日）、服薬タイミングの開始位置と終了位置を指定します。
画面下タブメニュー  ⇒ **【お薬設定】** ⇒ **開始／終了桁数設定** ボタンをタップします。読み取り方法で **桁数を定義する** を選択します。



分包機で印字された QR コードが以下のような場合、

服薬対象者の ID 情報

服薬対象日

服薬タイミング

0000000113,2022/03/01,0068

桁数 ↑
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

ID 開始桁は 1、ID 終了桁は 10

服薬対象年開始桁は 12、終了桁は 15

服薬対象月桁は 17

服薬対象日桁は 20

お薬コード開始桁は 23、終了桁は 26

を設定します。

年月日のデータを使用して服薬対象日の間違い検出有効/無効の設定を行います。

お薬コードを使用して服薬タイミングの間違い検出有効/無効の設定を行います。

分包機で印字された QR コードの読み取り順序設定

分包機で印字された QR コードの情報が、特定の区切り文字（,（カンマ）や空白）で区切られている場合、読み取り順序を指定することで服薬対象者の ID 情報、服薬対象日、服薬タイミングの情報を取り込むことが可能です。

服薬対象者の ID 情報、服薬対象日（年、月、日）、服薬タイミングの順番を指定します。

画面下タブメニュー  [設定] ⇨ [お薬設定] ⇨ **開始／終了桁数設定** ボタンをタップします。読み取り方法で、（半角）、区切り文字列 を選択します。



分包機で印字された QR コードが以下のような場合、

	服薬対象者の ID 情報	服薬対象日	服薬タイミング
	0000000113,2022/03/01,0068		
	↑	↑	↑
区切り桁	1 番目	2 番目	3 番目

ID 区切り桁は **1**
 日付区切り桁は **2** 日付フォーマットは **yyyy/mm/dd**
 お薬コード区切り桁 **3**
 を設定します。

年月日のデータを使用して服薬対象日の間違い検出有効/無効の設定を行います。

お薬コードを使用して服薬タイミングの間違い検出有効/無効の設定を行います。

分包機で印字された QR コードのお薬コードの設定

分包機で印字された QR コードの情報の服薬タイミングを示すコードは分包機の設定で異なります。そのため服薬タイミングを示すコードがどの服薬タイミングを示しているのかの設定が必要となります。

画面下タブメニュー  [設定] ⇨ [お薬設定] ⇨ **お薬コード設定** ボタンをタップします。



- | | |
|-----------|---|
| 朝食食前 | : 朝食 食前の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 朝食食後 | : 朝食 食後の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 朝食食間 | : 朝食と昼食の食間の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 昼食食前 | : 昼食 食前の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 昼食食後 | : 昼食 食後の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 昼食食間(3 時) | : 昼食と夕食の食間 (3 時薬) の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 夕食食前 | : 夕食 食前の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 夕食食後 | : 夕食 食後の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 夕食食間 | : 夕食と就寝前の間の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 起床後 | : 起床後の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 就寝前 | : 就寝前の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 定時薬 1 | : 定時薬 1 の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 定時薬 2 | : 定時薬 2 の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 定時薬 3 | : 定時薬 3 の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |
| 定時薬 4 | : 定時薬 4 の配薬タイミングを示すコードを設定します。 |

※服薬タイミングを示すコードの値は、提携している薬局様へご相談下さい。

上記 15 個以外のお薬 (用法) コードを設定する場合は、**お薬コードの詳細設定** ボタンをタップします

追加のお薬（用法）コードを設定する場合は、**お薬コードの詳細設定** ボタンをタップします。



表示される『お薬コードの詳細設定』リスト画面を上にもスワイプし、項目 16 以降の未定義となっている項目をタップします。

一つの用法名に最大 9 つのコードを設定することができます。
最初に基本設定で用法名を設定した後、追加のコードを設定します。

最初に基本設定を行います。 **基本 0000** ボタンをタップします。

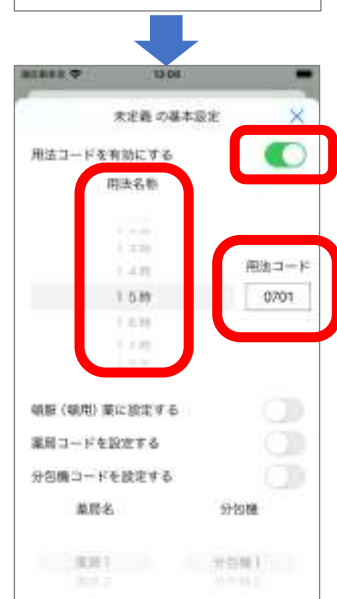


追加する用法名称と用法コードを設定し、『用法コードを有効にする』のスイッチを有効にします。

『頓服（頓用）薬に設定する』を有効にすると、服用時間のチェックを行わない QR コード読み取りとなります。

設定した用法名称と用法コードが追加され、QR コード読み取りの判定対象となります。お薬時間設定にも追加されるので、服薬時間帯の設定を行う必要があります。

※項目 1 ～ 15 の用法名称はシステムで予約されており、変更することはできません。



分包機で印字された QR コードのお薬時間の設定

分包機で印字された QR コードの開始終了桁数設定で、お薬コードを使用した服薬タイミングの間違い検出を有効にした場合、お薬コードのが示す服薬タイミングと異なる時間帯に QR コードが読まれた場合、服薬タイミングが違ふことを知らせます。

画面下タブメニュー  [設定] ⇨ [お薬設定] ⇨ **お薬時間設定** ボタンをタップすることで、お薬コードが示す服薬タイミングの時間帯を設定します。



『施設設定のダウンロード』項目参照



⇨ 服薬タイミングの時間帯をチェックする場合は有効の設定を行います。

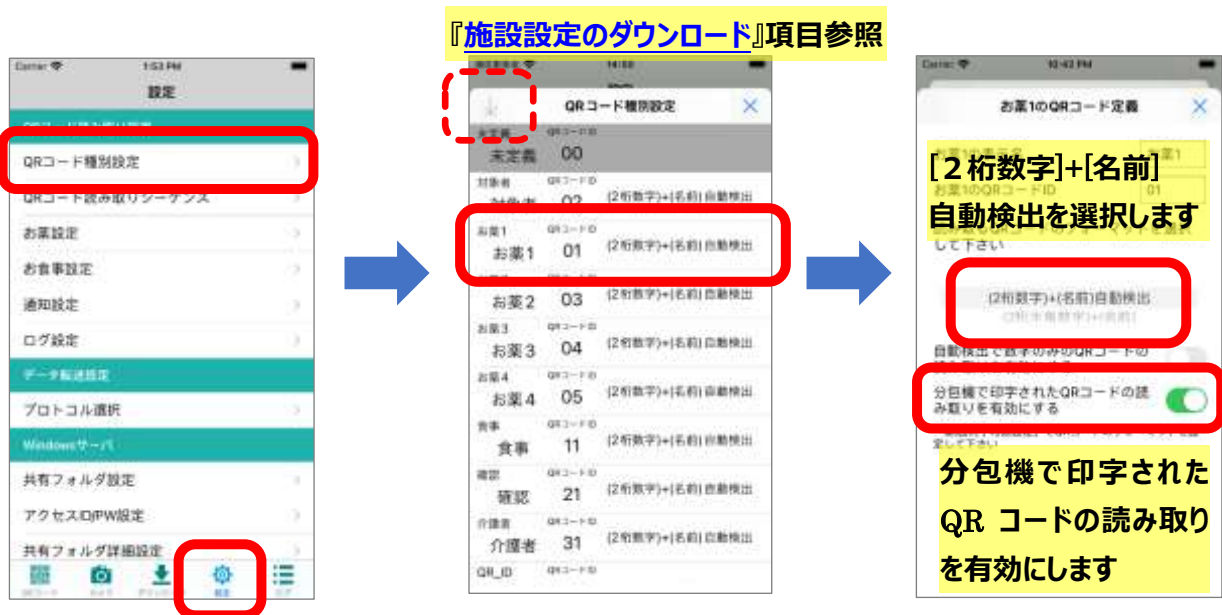
⇨ 服薬タイミングの開始時刻と終了時刻を設定します。

設定された時刻以外で対象の QR コードが読まれた場合、判定結果として NG 表示を行います

※最大 4 つの時間帯で服薬タイミングのチェックを行うことができます。

読み取る QR コードフォーマットの指定

お薬の QR コード読み取り時に、分包機で印字された QR コードであることを設定します。お薬 1 ～お薬 4 までのお薬毎に設定可能です。画面下タブメニュー [設定] ⇨ [QR コード種別設定] ⇨ [お薬 1 ～ 4] ⇨ 「分包機で印字された QR コードの読み取りを有効にする」をタップします。



QRコード定義画面で 読み取る QR コードのフォーマットで「〔2桁数字〕+〔名前〕自動検出」を選択します。さらに、「分包機で印字された QR コードの読み取り」を有効にします。

これで、分包機で印字された QR コードの読み取りが可能となります。

頓服（頓用）薬の指定方法

服薬タイミングが決まっていない頓服（頓用）薬の指定方法としては2つの方法があります。

（1）お薬（用法）コード毎に頓服（頓用）薬のフラグを設定する方法です。

画面下タブメニュー  「設定」 ⇨ 「お薬設定」 ⇨ **お薬コード設定** ボタンをタップします。
画面下部の、 **お薬コードの詳細設定** ボタンをタップします

頓服（頓用）薬のフラグを設定するお薬コードの詳細画面を表示して、『頓服（頓用）薬に設定する』を有効にします。

『[分包機で印字された QR コードのお薬コードの設定](#)』を参照下さい。

（2）お薬（用法）コード毎に頓服（頓用）薬のフラグを設定する方法です。

特定の日付が設定された QR コードを作成し、お薬時間帯を24時間設定にする方法です。

『[時間設定による頓服（頓用）薬の指定方法](#)』を参照下さい。

時間設定による頓服（頓用）薬の指定方法

頓服、頓用等の服薬タイミングが決まっていないお薬に対して読み取りチェックを行う場合は、特定の日付が設定された QR コードを作成または、分包機で印刷を行います。



0000000113,0000/00/00,0604

服薬対象者の ID 情報

服薬対象日

服薬タイミング

定時薬 4

ここでは、服薬対象日を 0000 年 00 月 00 日でデータを作成しています。又、服薬タイミングは定時薬 4 の設定を用いています

服薬対象日 0000 年 00 月 00 日の QR コードを読み取った場合、日付のチェックでエラーを出力しない設定を行います。

画面下タブメニュー  [設定] ⇨ [お薬設定] ⇨ **オプション設定** ボタンをタップすることで、特定の日付を無視する設定を行います。



「特定の日付を無視する」スイッチを有効にし、「無視する日付」に 0000 / 00 / 00 を設定します。

24 時間いつ QR コードを読んでも服薬タイミングエラーを出力しない設定を行います。

画面下タブメニュー  [設定] ⇨ [お薬設定] ⇨ **お薬時間設定** ボタンをタップすることで、お薬コードが示す服薬タイミングの時間帯を設定します。



- ⇨ 有効の設定を行います。
- ⇨ 服薬タイミングの開始時刻と終了時刻を同一時刻に設定します。
ここでは、00 時 00 分を開始時刻と終了時刻両方に設定します。
開始時刻と終了時刻を同じ時刻にすると背景が青色に変化します。

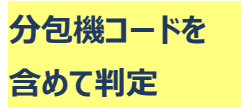
以上で、服薬タイミングが決まっていないお薬の読み取りが可能となります。

しかしながら、薬局で複数の分包機があり、それぞれの分包機で用法コードの自動生成を行った場合、異なるお薬種で同じコードが割り振られる可能性があります。又一つの施設で複数の薬局からお薬を取り寄せている場合も、薬局毎に分包機の設定が異なるために、異なるお薬種で同じコードが割り振られる可能性があります。

xxxx クリマク
寝る前
湯山 太郎様
3月 1日(火) 1種1個
空包

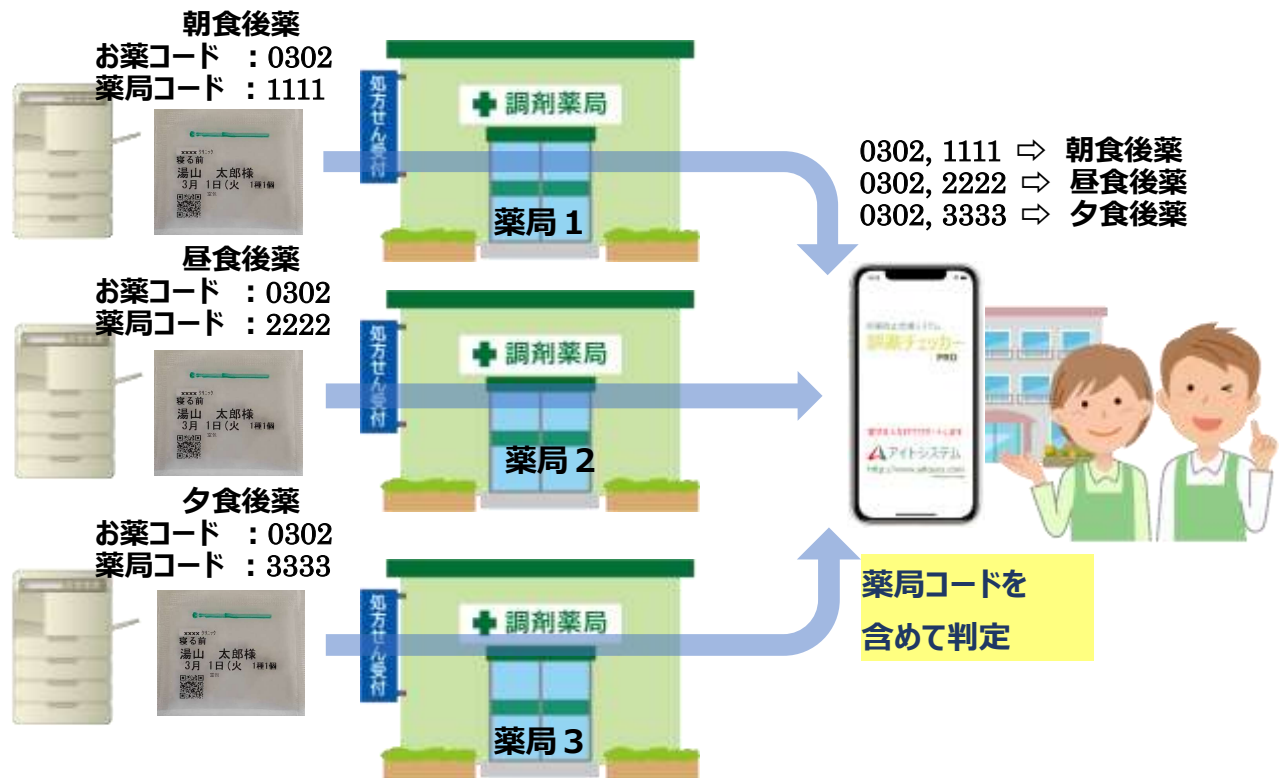
【お薬設定】の開始／終了桁数設定で分包機コード桁数設定を有効にして下さい。

●複数の分包機がある場合



●複数の薬局からお薬を取り寄せる場合

異なるお薬種別で同じお薬(用法)コードが設定されていても、薬局コードも参照することで、異なるお薬と判定することができます。



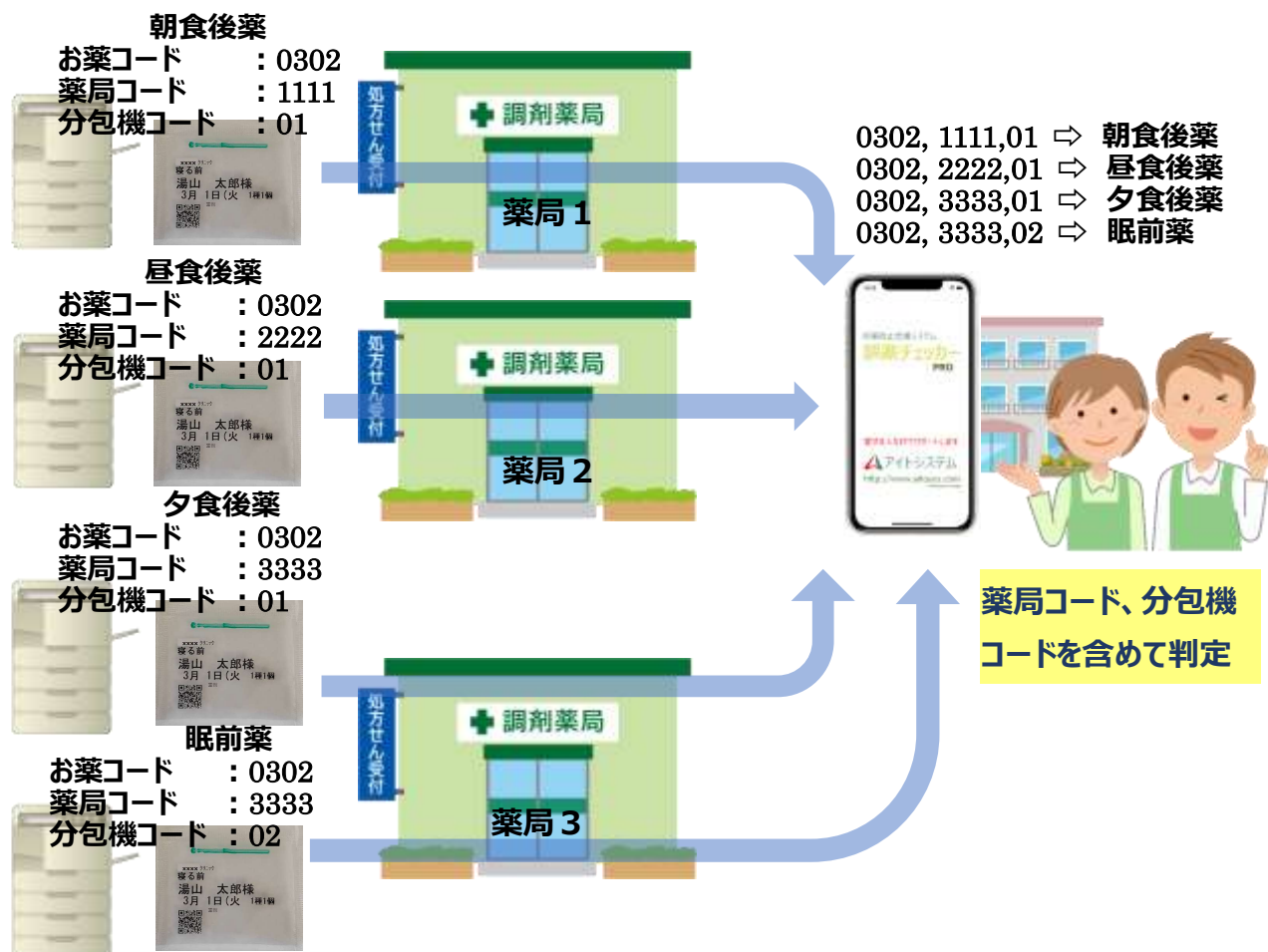
誤薬チェッカーは、4つの薬局毎に4台までの分包機コードを設定することができます。

※複数の薬局からお薬を取り寄せる場合、薬局コードは薬局間でユニークな値とする必要があります。

薬局コードは提携薬局間で調整して頂く必要があります。

● 複数の薬局の複数の分包機からお薬を取り寄せる場合

異なるお薬種別で同じお薬(用法)コードが設定されていても、薬局コードと分包機コードを参照することで、異なるお薬と判定することができます。



誤薬チェッカーは、4つの薬局毎に4台までの分包機コードを設定することができます。

※ 複数の薬局からお薬を取り寄せる場合、薬局コードは薬局間でユニークな値とする必要があります。

※ お薬を取り寄せる全ての薬局で、薬局コードと分包機コードを設定する必要があります。

薬局コードは提携薬局間で調整して頂く必要があります。

薬局／分包機コードの設定

画面下タブメニュー  [設定] ⇨ [お薬設定] ⇨ **オプション設定** ボタンをタップしてオプション設定画面を表示します。画面下の **薬局設定** ボタンをタップすると、薬局 1～薬局 4 の設定ボタンが表示されます。設定する薬局のボタンをタップして分包機コードの設定画面を表示します。



利用する全ての薬局の分包機コードを設定します。有効な薬局コードは全ての薬局間でユニークな値とする必要があります。

薬局の分包機コードが設定できたら、お薬（用法）コードの設定で対象となるお薬種別に分包機コードを紐づけます。

画面下タブメニュー  ⇒ **【お薬設定】** ⇒ **お薬コード設定** ボタン ⇒ **お薬コードの詳細設定** ボタンの順にタップします。お薬コードの詳細設定項目が表示されるので、分包機コードを紐づける、お薬（用法）コードをタップします。



『薬局コードを設定する』、『分包機コードを設定する』を有効にします。

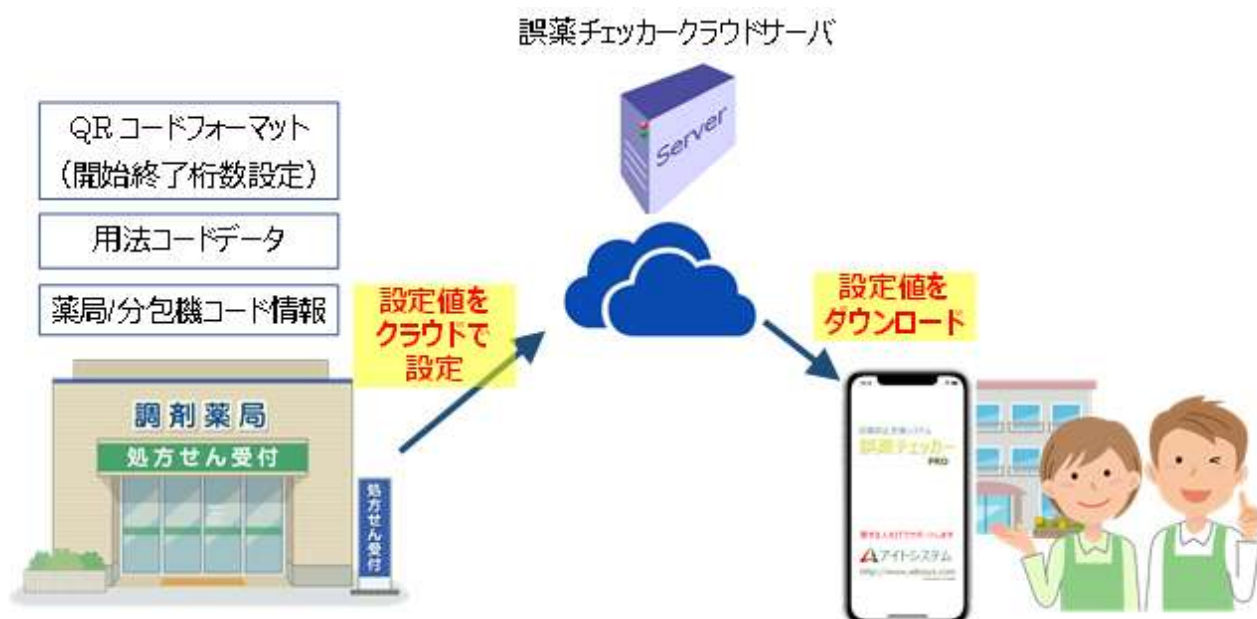
薬局名と分包機名の選択が有効となるので、紐づける薬局名と分包機名を選択します。

分包機コードを紐づける、全てのお薬（用法）コードに対して薬局名と分包機名を設定することで、分包機コードを含めた QR コードの判定が利用可能となります。

薬局設定のダウンロード

薬局様でお薬設定の設定値をクラウドにセットしておく、端末アプリでは、設定値のダウンロードボタンをタップするだけで、クラウドに保存されているデータを端末に設定することが可能です。設定値のダウンロード機能を利用するには、誤薬チェッカーアプリをサーバに接続する必要があります（「[ネットワーク接続](#)」を参照下さい）。

※薬局様でのクラウドへの設定方法は、『誤薬チェッカーPro クラウドアクセスガイド（薬局編）』薬局システム管理を参照下さい。



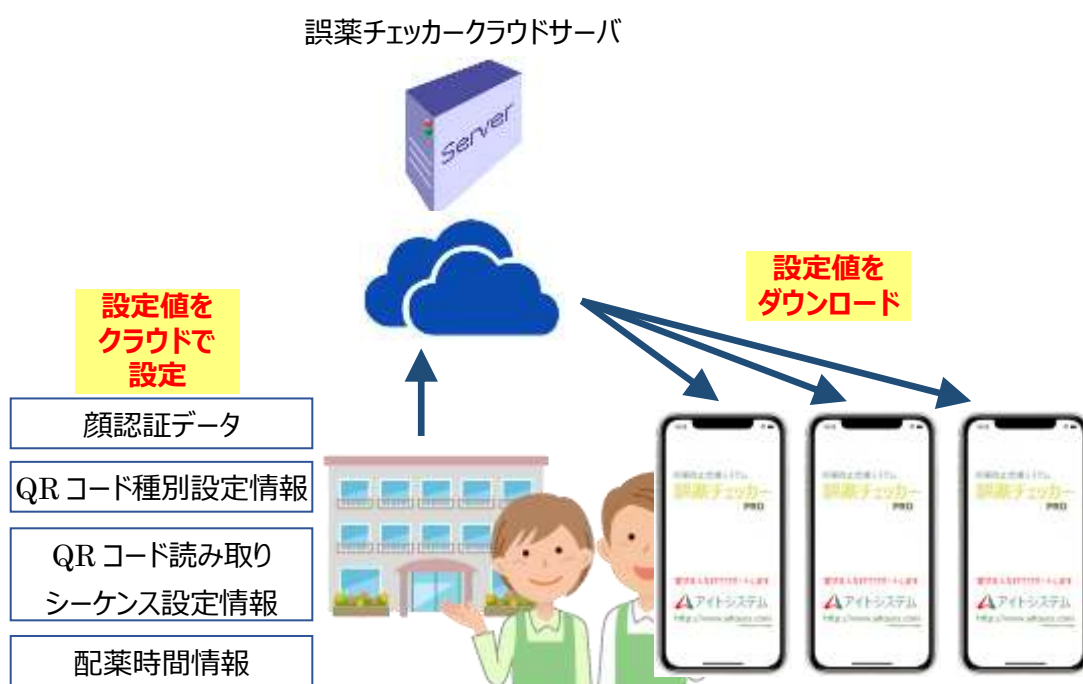
クラウドで設定できる薬局設定値には以下のものがあります。

- (1) QRコードフォーマットデータ（開始／終了桁数設定）
- (2) 用法（お薬）コードデータ
- (3) 薬局／分包機コードデータ

施設設定のダウンロード

薬局様でお薬設定の設定値をクラウドにセットしておくと、端末アプリでは、設定値のダウンロードボタンをタップするだけで、クラウドに保存されているデータを端末に設定することが可能です。設定値のダウンロード機能を利用するには、誤薬チェッカーアプリをサーバに接続する必要があります（「[ネットワーク接続](#)」を参照下さい）。

※施設様でのクラウドへの設定方法は、『誤薬チェッカーPro クラウドアクセスガイド（施設編）』施設システム管理を参照下さい。



クラウドで設定できる施設様設定値には以下のものがあります。

- （１）顔認証データ
- （２）QRコード種別設定データ
- （３）QRコード読み取りシーケンス設定データ
- （４）配薬時間設定データ

NG 理由／中止理由入力

NG 理由入力

QRコード読み取りでNGを検出した時、その原因をログとして保存可能です。ログから原因を解析することで、誤薬のリスク改善を容易に行うことが可能です。

QRコードの読み取りでNGとなった場合、[NG 理由] ボタンが表示され、ボタンをタップするとNG理由を選択する画面が表示されます。NG理由を選択し、OKをタップすると、NG理由がログに保存されます。



NG 理由候補を表示するには、画面下タブメニュー  [設定] ⇨ [お薬設定] ⇨ **オプション設定** ボタンをタップします。オプション設定画面が表示されるので、「NG 理由ボタンの表示」スイッチを有効にします。



デフォルトで、NG 要因として選べる候補は以下の通りです。

同じ QR コードを複数回スキャンした
お薬を確認しなかった
対象者を確認しなかった
対象者のお薬でなかった
その他の要因

NG 要因の候補は、サーバで CSV ファイルを設定することで、独自の要因を追加、変更することが可能です。最大で 10 要因まで設定することができます。サーバでの NG 要因設定方法は、「誤薬チェッカーNeo クラウドアクセスガイド」を参照下さい。

サーバで設定された NG 要因データを端末にダウンロードするには、ネットワークに接続した状態にする必要があります。ネットワークに接続していない場合は、「[ネットワーク接続](#)」を参照してネットワーク接続して下さい。

サーバで設定された NG 要因データを端末にダウンロードするには、画面下タブメニュー  [設定] ⇨ [お薬設定] ⇨ **オプション設定** ボタン ⇨ **NG 理由候補のダウンロード** ボタンの順にタップします。



中止理由入力

QRコード読み取りを中止した時、中止理由候補から中止理由を選択し、ログに保存することが可能です。
中止理由を確認することで申し送り時の間違いを防止することができます。



中止理由候補を表示するには、画面下タブメニュー  ⇒ **【お薬設定】** ⇒ **オプション設定** ボタンをタップしてオプション設定画面が表示されるので、「中止理由ボタンの表示」スイッチを有効にします。



「中止理由ボタンの表示」スイッチを有効にすると、デフォルトでは確認画面に **保留/中止理由** ボタンが表示されます。QR コード読み取り画面で中止した場合に、中止理由ボタンを表示するには、画面下タブメニュー **[設定]** ⇒ **[システムオプション設定]** をタップします。



「QR コード読み取り中止でメニューを表示する」スイッチを有効にします。

システムオプション設定の「QR コード読み取り中止でメニューを表示する」スイッチを有効にすると、QR コード読み取り画面で、左下の **キャンセル** をタップすると、中止メニューが表示されるようになります。



QR コード読み取り画面で画面左下の、**キャンセル** の文字をタップします。

デフォルトで、中止理由として選べる候補は以下の通りです。

お薬を飲まなかった
お薬を吐き出した
お薬を落とした
服用時間変更
ナース/ドクター指示
症状が[悪く/良く]なった
対象者の薬でなかった
QRコード不良
該当理由無し

中止理由の候補は、サーバで CSV ファイルを設定することで、独自の理由を追加、変更することが可能です。最大で 10 まで設定することができます。サーバでの中止理由設定方法は、「誤薬チェッカーNeo クラウドアクセスガイド」を参照下さい。

サーバで設定された中止理由データを端末にダウンロードするには、ネットワークに接続した状態にする必要があります。ネットワークに接続していない場合は、「[ネットワーク接続](#)」を参照してネットワーク接続して下さい。

サーバで設定された中止理由データを端末にダウンロードするには、画面下タブメニュー  [設定] ⇒ [お薬設定] ⇒ **オプション設定** ボタン ⇒ **中止理由候補のダウンロード** ボタンの順にタップします。

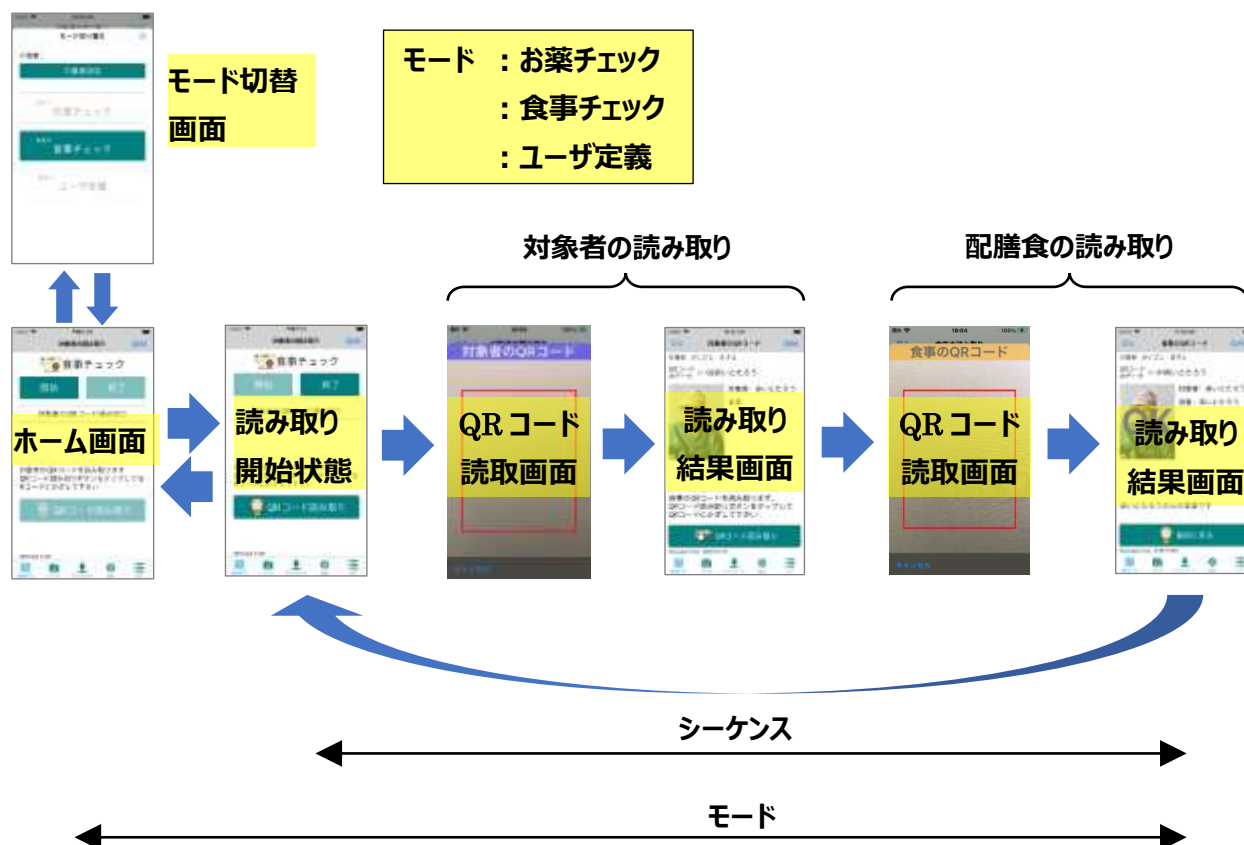


食事チェック

配膳食の QR コードを読み取って食事の間違いないか判定を行う方法を示します。

食事の QR コード読み取りの流れ

食事 QR コード読み取りの流れを以下に示します。



食事 QR コード読み取りはホーム画面から始まります。食事チェックを開始すると、読み取り開始状態に移ります。最初に対象者の QR コード読み取ると、読み取り結果が表示されます。次に食事の QR コード読み取ると、読み取り結果の画面に判定結果が表示されます。

引き続き、次の対象者の QR コードを読み取る場合は、読み取り開始状態に移り、同様に対象者の QR コード、食事の QR コードを読み取ります。

全ての対象者のお薬チェックが完了すると、ホーム画面に移ることで、モード切り替えが行えるようになります。

シーケンス : 一人の対象者の読み取り開始状態から最後の読み取り結果までの流れ

モード : 食事チェックを開始して全ての対象者の読み取りを完了し食事チェックを終了するまでの流れ

食事チェックモードの切り替え

QRコードの読み取りモードを切り替えるには、ホーム画面で読み取りシーケンスが開始されていない状態（**開始**ボタンが有効になっている状態）で画面下タブメニューの「**QRコード**」を**長押し**するとモード切り替え画面が表示されます。

※読み取りシーケンスが開始されている状態では切り替え画面は表示されません。



お薬チェック、**食事チェック**、**ユーザ定義** ボタンのいずれかをタップして（ここでは **食事チェック** ボタンをタップ）モードを選択します。

又、モード切り替え画面で食事チェックを行う介護担当者の名前を入力します。**介護者設定** ボタンをタップして、介護者の名前を登録します。画面のキーボードから入力する他に、QRコードを読み取ることも入力可能です。

QRコードで読み取る場合は、（数字 2 桁） + （名前） のフォーマットの QRコードを読み取ります。数字 2 桁はどのような値でも読み取り可能です。

食事チェック QR コードの読み取り

配食対象者のQRコード読み取り

食事チェックを開始して、配食対象者の QR コードを読み取るには **開始** ボタンをタップします。



QRコード読み取り ボタンが有効となり、対象者の QR コードを読み取るには、**QRコード読み取り** ボタンをタップします。カメラが起動するので、対象者の QR コードを画面に映すと読み取りが完了します。

対象者の QR コード読み取り結果が表示されます。



QR コードの読み取り内容、対象者の名前、顔写真が登録されている場合は顔写真が表示されます。

顔写真が登録されていない場合は以下の画像が表示されます。



顔写真の登録方法は「[顔写真の管理](#)」を参照下さい。

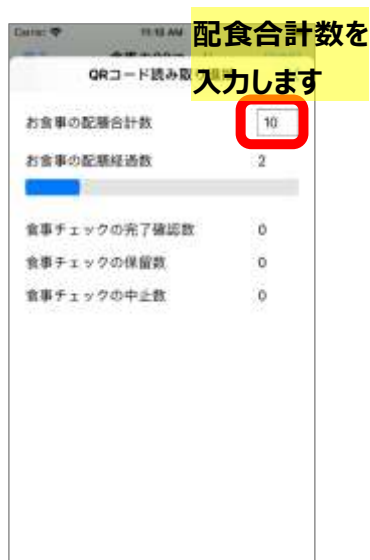
食事のQRコード読み取り

対象者のQRコード読み取りに続いて、食事のQRコードを読み取ります。



カメラが起動するので、お薬の QR コードを画面に映すと読み取りが完了し、判定結果が音声メッセージと共に表示されます。内容確認後、最初の画面に戻るボタンをタップしてホーム画面に遷移します。

又、画面右上の数字をタップすると読み取りの進捗状況を確認することができます。



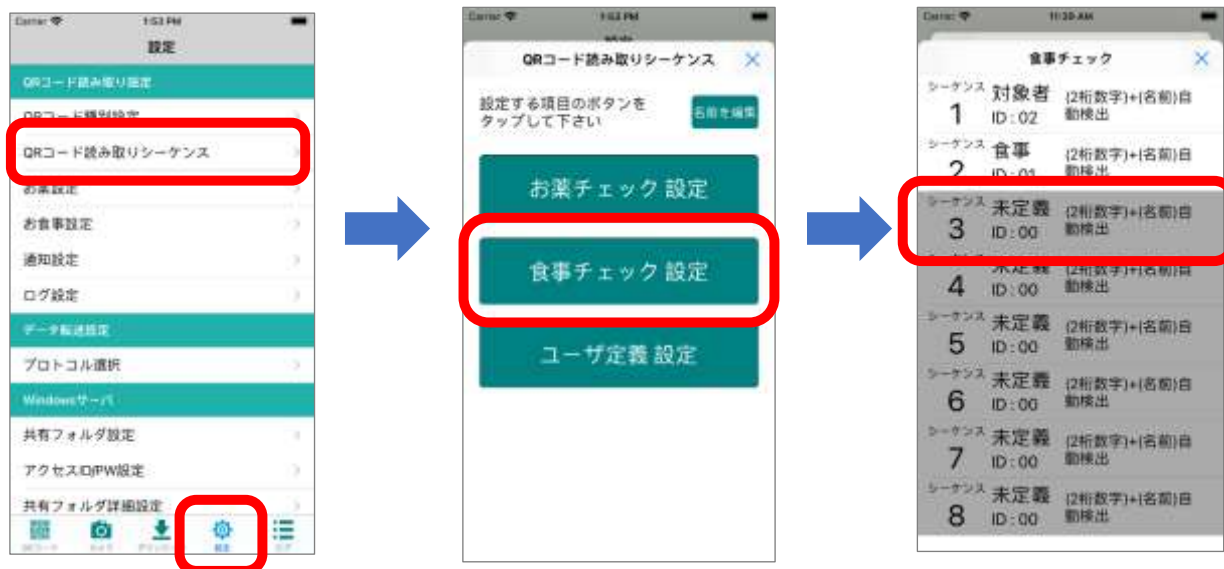
食事の配食合計数を入力しておくと、現在の配食経過数とその進捗度が進捗バーで表示されます。

食事チェックの完了確認数、保留数、中止数は、読み取りシーケンスの中で完了確認を行った時の合計数を表示します。

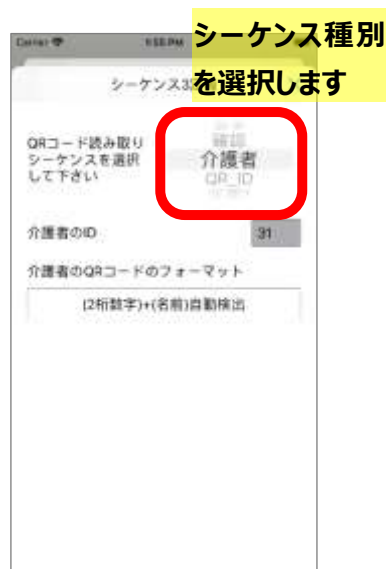
読み取りシーケンス中はいつでも、読み取りの進捗状況を確認することができます。又、その値は食事チェックモードの開始（**食事チェック開始** ボタンをタップ）した時にクリアされます。

食事チェック読み取りシーケンスの変更

対象者と食事の QR コードだけでなく、介護者や独自に定義した QR コードを読むことができます。又、その順序も自由に設定可能です。読み取りシーケンスを設定するには、画面下タブメニュー **設定** ⇒ **QRコード読み取りシーケンス** ⇒ **食事チェック設定** ボタン ⇒ **設定したいシーケンス項目** の順にタップします。



シーケンス定義の設定画面が表示されます。ここで設定したいシーケンス種別を選択します。



シーケンス種別は以下の中から選択できます。

- 対象者 : 対象者の QR コード読み取り
- お薬 1 : お薬 1 の QR コード読み取り
- お薬 2 : お薬 2 の QR コード読み取り
- お薬 3 : お薬 3 の QR コード読み取り
- お薬 4 : お薬 4 の QR コード読み取り
- 食事 : 食事の QR コード読み取り
- 確認 : 完了確認を表示します。読み取り進捗状況に表示する
[完了] [保留] [中止] を登録できます
- 介護者 : 介護者の QR コード読み取り
- QR_ID : QRID (先頭二桁の数字) に従って種別を判定します。
- 定義 1 : ユーザ定義の QR コード読み取り
- 定義 2 : ユーザ定義の QR コード読み取り
- 定義 3 : ユーザ定義の QR コード読み取り
- 定義 4 : ユーザ定義の QR コード読み取り

食事チェックシーケンス設定例 1

シーケンス	対象者	(2桁数字)+(名前)自動検出
1	ID: 02	
シーケンス	食事	(2桁数字)+(名前)自動検出
2	ID: 01	
シーケンス	介護者	(2桁数字)+(名前)自動検出
3	ID: 31	
シーケンス	未定義	(2桁数字)+(名前)自動検出
4	ID: 00	
シーケンス	未定義	(2桁数字)+(名前)自動検出
5	ID: 00	
シーケンス	未定義	(2桁数字)+(名前)自動検出
6	ID: 00	
シーケンス	未定義	(2桁数字)+(名前)自動検出
7	ID: 00	
シーケンス	未定義	(2桁数字)+(名前)自動検出
8	ID: 00	

シーケンスの第 1 ステップ：対象者の QR コード読み取り

シーケンスの第 2 ステップ：食事の QR コード読み取り

シーケンスの第 3 ステップ：介護者の QR コード読み取り

上図のような設定の場合読み取りシーケンスは以下のようになります。



- ※ 最大 8 個のシーケンス種別を設定できます。
- ※ 同一項目のシーケンス種別も設定できます。
- ※ 未定義の項目でシーケンスは終了します。
- ※ 右図のような場合、シーケンス 5 は実行されません。

シーケンス	対象者	(2桁数字)+(名前)自動検出
1	ID: 02	
シーケンス	食事	(2桁数字)+(名前)自動検出
2	ID: 01	
シーケンス	介護者	(2桁数字)+(名前)自動検出
3	ID: 31	
シーケンス	未定義	(2桁数字)+(名前)自動検出
4	ID: 00	
シーケンス	定義1	(2桁数字)+(名前)自動検出
5	ID: 41	
シーケンス	未定義	(2桁数字)+(名前)自動検出
6	ID: 00	
シーケンス	未定義	(2桁数字)+(名前)自動検出
7	ID: 00	
シーケンス	未定義	(2桁数字)+(名前)自動検出
8	ID: 00	

シーケンス4で終了し
シーケンス5(定義 1)
は実行されません

食事チェックシーケンス設定例 2

食事チェック		
シーケンス 1	対象者	{2桁数字}+(名前)自動検出
シーケンス 2	食事	{2桁数字}+(名前)自動検出
シーケンス 3	確認	{2桁数字}+(名前)自動検出
シーケンス 4	未定義	{2桁数字}+(名前)自動検出
シーケンス 5	未定義	{2桁数字}+(名前)自動検出
シーケンス 6	未定義	{2桁数字}+(名前)自動検出
シーケンス 7	未定義	{2桁数字}+(名前)自動検出
シーケンス 8	未定義	{2桁数字}+(名前)自動検出

シーケンスの第 1 ステップ：対象者の QR コード読み取り

シーケンスの第 2 ステップ：食事の QR コード読み取り

シーケンスの第 3 ステップ：完了確認

上図のような設定の場合読み取りシーケンスは以下のようになります。



完了確認画面では、 完了、 保留、 中止 ボタンが表示され、配薬の状況に応じて対応するボタンをタップします。画面右上の数字をタップすると、完了、保留、中止それぞれの配薬数を確認することができます。

配膳食種別の QR コード読み取り

食事の QR コードの読み取りでは、食事の QR コードは（数字 2 桁）＋（名前）で構成されるため、配膳食に張り付ける QR コードは、配食対象者毎に作成する必要があります。



配食対象者と食事種別のデータを用意して頂くと、食事種別での判定をすることができます。これにより配膳食に張り付ける QR コードは食事種別の数だけですみます。



配食対象者の食事種別情報設定

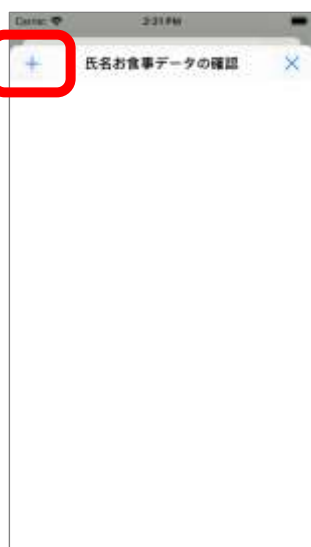
配食対象者の食事種別を特定するには、配食対象者と食事種別を紐づける情報が必要となります。端末ごとに入力することも可能ですが、複数の端末を設定する場合は、配食対象者と食事種別を記述した CSV ファイルをサーバからダウンロードすることで簡単に設定可能です。

端末ごとに入力する場合

配食対象者の名前と食事種別情報を入力するには、画面下タブメニュー  ⇒ **【お食事設定】** ⇒ **氏名お食事ファイルの編集** ボタン ⇒ ID 氏名データの確認画面左上 **【+】** の順にタップします。



氏名お食事変換を有効にします。



配食対象者の名前をひらがなで入力します。服薬対象者の QR コードの名前の形式（半角 or 全角、空白有無）と一致している必要があります。

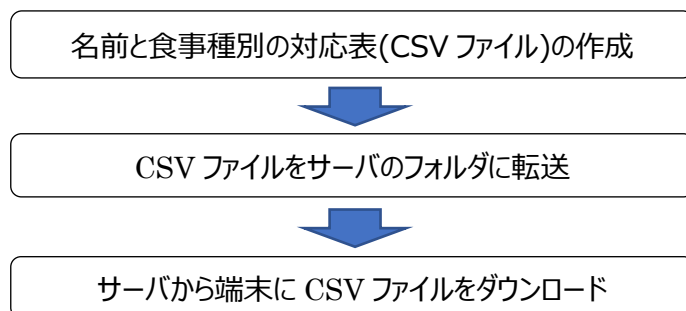
お食事種別には普通食、減塩食など、食事種別を入力します。

画面右上の **【x】** で終了します。

【+】 ボタンをタップして設定対象者全てのデータを入力します。

サーバからダウンロードする場合

ID 情報と名前をサーバからダウンロードして設定する場合は以下の流れになります。



名前と食事種別の対応表(CSV ファイル)の作成

あいとたろう,普通食
あいとじろう,糖尿病食
ゆやまたろう,普通食
ゆやまじろう, 普通食
しすてむはなこ,減塩食
⋮
⋮

パソコンのメモ帳やエクセルを使って、名前と食事種別の対応表を作成します。作成したデータを csv 形式(,(カンマ)で区切られたテキストファイル)で保存します。

ファイル名は”name_meal.csv”で保存します。

※文字コードは shift-JIS で保存する必要があります。
Windows のメモ帳アプリやエクセルではデフォルトで shift-JIS で保存されます。

CSV ファイルをサーバに転送

作成した CSV ファイルをサーバの共有フォルダに保存します。(サーバの設定方法は『誤薬チェッカーPro サーバ設定ガイド』を参照下さい)

サーバから端末に CSV ファイルをダウンロード

設定メニューのデータ転送設定のプロトコル選択でデータ転送プロトコルを選択し、ネットワークに接続状態にします(「[ネットワーク接続](#)」参照下さい)。

画面下タブメニュー  [設定] ⇔ [お食事設定] をタップし、お食事設定画面から **氏名お食事ファイルのダウンロード** ボタンをタップします。一度ダウンロードを実行すると、サーバのファイルを更新するまではダウンロード不要です。又、アプリの起動毎にダウンロードを実行することも可能です。

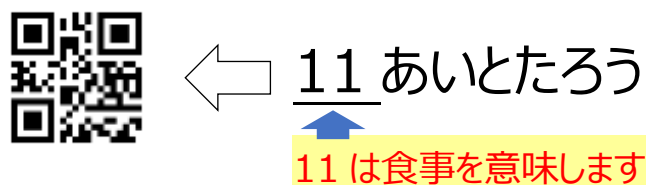


※配食対象者の名前と食事種別情報が一つも存在しない状態で氏名お食事変換を有効にした場合、配食対象者の名前が登録された QR コードの読み取りモードになります。

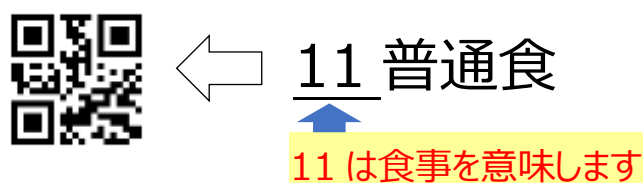
※氏名お食事変換を有効にした状態で、読み取りシーケンスに複数の食事の QR コード読み取りを設定した場合、最後の食事の QR コード読み取りで取り込んだ食事種別が有効となります。

※氏名お食事変換の QR コードは（食事を示す数字 2 桁：初期時は 1 1）＋（食事種別）の形式で作成します

【例】通常（個人毎）の食事の QR コード



【例】氏名お食事変換の食事の QR コード



ネットワーク接続

サーバの画像ファイルや CSV ファイルにアクセスするためのネットワーク接続方法を示します。

利用可能なサーバ方式

写真データの管理やログデータの管理等の為にお客様が用意した PC(サーバ)やインターネット上のサーバにアクセスすることができます。誤薬チェッカーPro は以下の 3 種類のサーバアクセスに対応しています。



Windows 共有フォルダ接続

セキュリティの観点から施設内の端末をインターネットに接続したくない場合があります。そのような場合は、施設内の閉じたネットワーク内でアクセスできる Windows パソコンをサーバとして利用可能です。施設内の Windows パソコンで写真を保存しているフォルダを共有設定することで誤薬チェッカーPro からアクセスすることができます。

クラウドサーバ接続（オプション）

施設内にネットワーク環境がない場合、アイトシステムが用意したクラウドサーバの利用が可能です。パソコンやスマホを使って簡単に画像やログの管理ができます。



SSH(SCP)サーバ接続

施設内でレンタルサーバ事業者を介してホームページの開設を行なっている場合、レンタルサーバ事業者の SSH(SCP)サーバが使える場合があります。そのような場合、SSH(SCP)サーバを誤薬チェッカーPro のサーバとして利用可能です。

Windows 共有フォルダ接続設定

Windows の共有フォルダを利用する場合は、共有フォルダにアクセスするために、Windows パソコンの IP アドレスと共有フォルダ名を設定します。画面下タブメニュー [設定] ⇨ [Windows サーバ 共有フォルダ設定] の順にタップします。

IP アドレスの値と共有フォルダ名に関しては PC 管理者に問い合わせるか、『誤薬チェッカーPro サーバ設定ガイド』を参照願います。



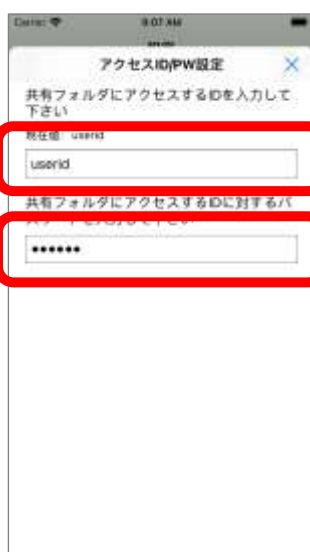
共有設定をしている Windows パソコンの IP アドレスを設定します。

共有設定をしている Windows パソコンの共有フォルダを設定します。

Windows の共有フォルダにアクセスするために、アクセス ID とそのパスワードを設定します。

画面下タブメニュー [設定] ⇨ [Windows サーバ アクセス ID/PW 設定] の順にタップします。

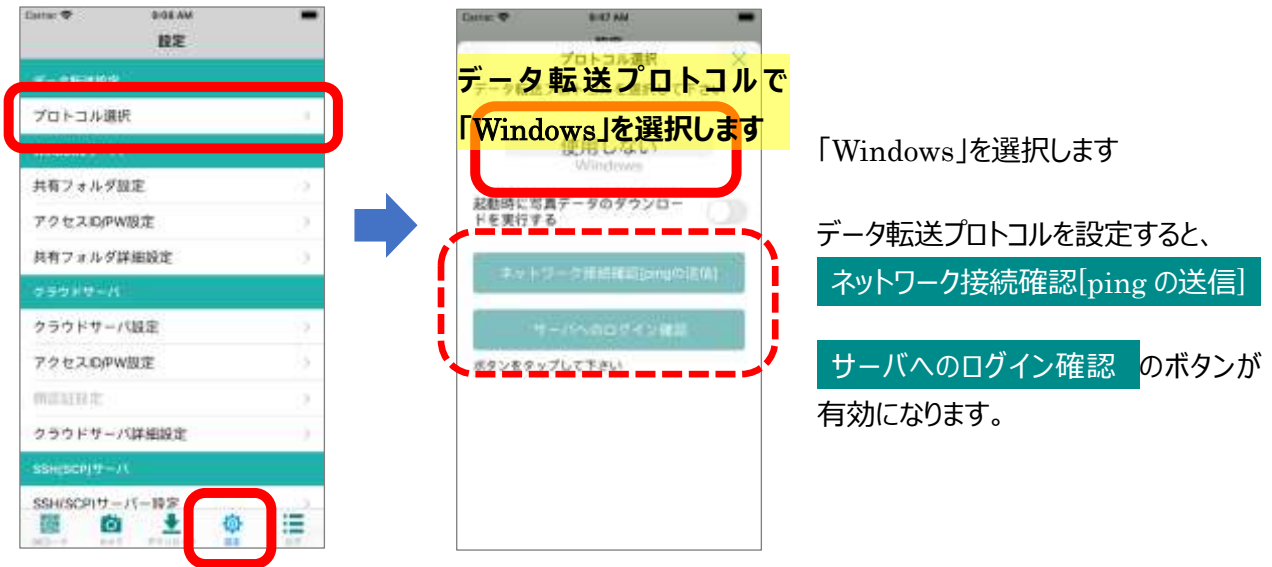
ユーザ ID/PW に関しては PC 管理者に問い合わせるか、『誤薬チェッカーPro サーバ設定ガイド』を参照願います。



共有フォルダにアクセスするためのユーザ ID を設定します。

共有フォルダにアクセスするユーザ ID に対するパスワードを設定します。

データ転送に使用するプロトコルに Windows 共有フォルダ接続を使用することをアプリに設定します。
画面下タブメニュー [設定] ⇨ [データ転送設定 プロトコル選択] の順にタップします。



Windows 共有フォルダ接続確認

Windows パソコンへの接続が正しく行われるか確認を行うことができます。確認方法として2種類の確認ボタンを用意しています。

ネットワーク接続確認

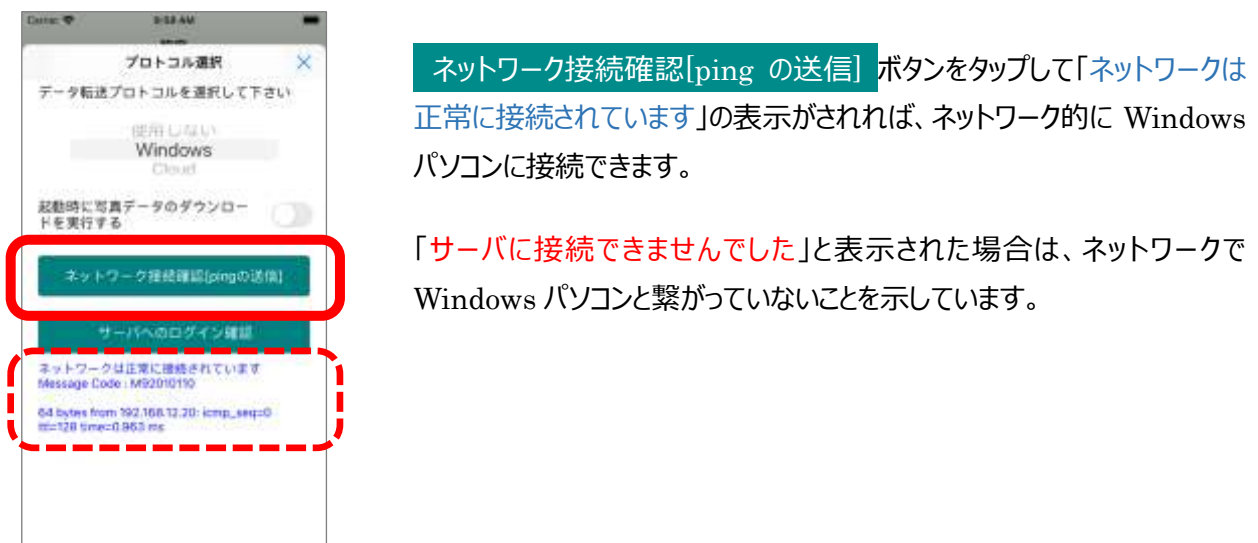
: ネットワーク的に正しく接続できるか確認を行います。

サーバへのログイン確認

: Windows パソコンの共有設定が正しくできているか確認を行います。

ネットワーク接続確認

無線 LAN やルータを経由して Windows パソコンに接続できるか確認を行います。



エラーの原因として、以下の要因が考えられます。

- ・スマホの Wifi 接続が有効になっていない。
- ・共有フォルダ設定で設定した Windows パソコンの IP アドレスが違う。
- ・Windows パソコンの電源が入っていない。
- ・Windows パソコンがネットワークに接続されていない。
- ・スマホが接続する Wifi ルータのネットワークと Windows パソコンのネットワークが異なる。

サーバへのログイン確認

ネットワーク接続確認で正常に接続できていることが確認できれば、Windows 共有フォルダへのアクセス確認を行います。



サーバへのログイン確認 ボタンをタップして「**Windows サーバにログインできました**」の表示がされれば、Windows 共有フォルダへのアクセスが可能であることが確認できます。

エラーが発生した場合、以下の要因が考えられます。

- ・「**設定されたユーザ ID/パスワードが不正です**」と表示された場合：
「共有フォルダのアクセス ID/PW 設定」で設定した、ユーザ ID もしくはパスワードが間違っています。
- ・「**設定されたフォルダが Windows サーバで共有されていません**」と表示された場合：
「共有フォルダ設定」で設定した共有フォルダの名前が間違っています。
- ・「**Windows サーバサーバのアクセスに失敗しました**」と表示された場合：
Windows パソコンの共有フォルダ設定に問題があります。

NAS (Network Attached Storage) の使用

Windows パソコンの代わりに SMB 対応の NAS (Network Attached Storage) を利用することも可能です。Windows パソコンの場合と同様に、NAS の IP アドレスと共有フォルダ名、ユーザ ID、パスワードを設定します。

NAS 機器の設定に関しては、NAS 機器個別のマニュアルを参照下さい。

ネットワークへのアクセスの許可

誤薬チェッカーPro アプリをインストール後、初めてネットワークのアクセスを行うと、アクセスの許可を求めるアラートが表示されます。



ネットワークアクセスを許可するには「OK」をタップします。

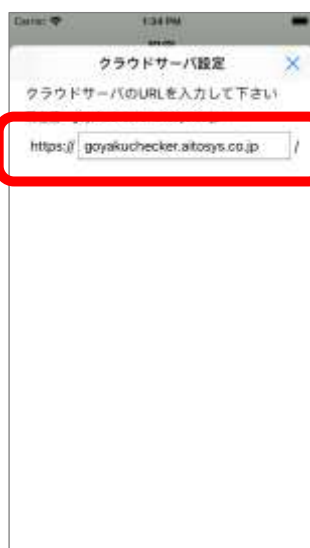
「許可しない」をタップすると、ネットワークへの接続が出来なくなります。

間違って「許可しない」をタップしてしまった場合は iOS の設定画面からカメラへのアクセス許可を設定します。



クラウドサーバ接続設定

アイトシステムが用意したクラウドサーバを利用する場合は、クラウドサーバの URL と ID/PW を設定します。画面下タブメニュー  ⇒ **【クラウドサーバ クラウドサーバ設定】** の順にタップします。



URL には
「goyakuchecker.aitosys.co.jp」を
指定します。特に指示がない限りは
変更しないで下さい。

アクセス ID とパスワードを設定します。

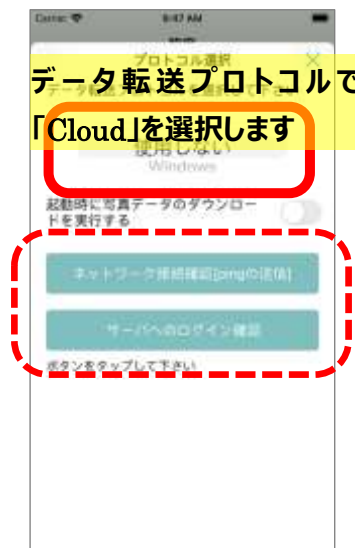
画面下タブメニュー  ⇒ **【クラウドサーバ アクセス ID/PW 設定】** の順にタップします。



クラウドオプションを契約した時に通
知される、ID とパスワードを指定しま
す。

データ転送に使用するプロトコルにクラウド接続を使用することをアプリに設定します。

画面下タブメニュー [設定] ⇨ [データ転送設定 プロトコル選択] の順にタップします。



「Cloud」を選択します

データ転送プロトコルを設定すると、
ネットワーク接続確認[pingの送信]、

サーバへのログイン確認 のボタンが
有効になります。

クラウドサーバ接続確認

クラウドサーバへの接続が正しく行われるか確認を行うことができます。確認方法として2種類の確認ボタンを用意しています。

ネットワーク接続確認

: クラウドサーバまでのネットワークに正しく接続できるか確認を行います。

サーバへのログイン確認

: クラウドサーバのログイン確認を行います

ネットワーク接続確認

無線 LAN やルータを経由してクラウドサーバに接続できるか確認を行います。



[ネットワーク接続確認[pingの送信]] ボタンをタップして「**ネットワークは正常に接続されています**」の表示がされれば、ネットワーク的にクラウドサーバに接続できることが確認できます。

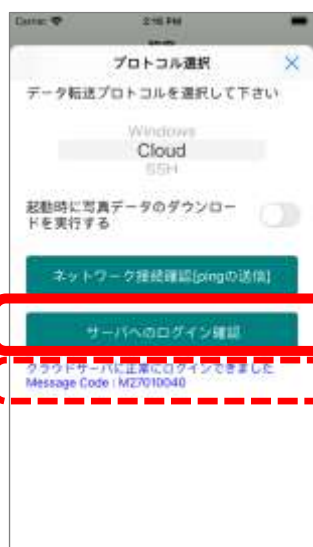
「**サーバに接続できませんでした**」と表示された場合は、クラウドサーバと繋がっていないことを示しています。

エラーの原因として、以下の要因が考えられます。

- ・クラウドサーバ設定の URL 設定が違っている。
- ・スマホの Mobile 接続が有効になっていない（SIM によるモバイル接続の場合）。
- ・スマホの Wifi 接続が有効になっていない（ローカルネットワーク接続の場合）。
- ・ローカルネットワークからインターネットに接続できる構成になっていない。

サーバへのログイン確認

ネットワーク接続確認で正常に接続できていることが確認できれば、クラウドサーバへのアクセス確認を行います。



サーバへのログイン確認 ボタンをタップして「クラウドサーバに正常にログインできました」の表示がされれば、クラウドシステムへのアクセスが可能であることが確認できます。

エラーが発生した場合、以下の要因が考えられます。

- ・クラウドサーバ設定の URL 設定が違っている。
- ・クラウドサーバのアクセス ID/パスワードが違っている。

SSH (SCP) サーバ接続設定

レンタルサーバ事業者の SSH (SCP) サーバ、或いは自身で運営する SSH (SCP) サーバを利用することができます。

誤薬チェッカーPro のサーバとして利用するためには、ls コマンドの以下のオプションに対応している必要があります。

```
ls -o --time-style=+'%Y-%m-%d %H:%M:%S'
```

SSH サーバのコンソールで上記のコマンドを実行してエラーが表示されなければ、利用可能です。詳細は各施設のネットワーク管理者に相談下さい。

SSH (SCP) サーバを利用する場合は、サーバの IP アドレスとログイン時のアクセスフォルダを設定します。

画面下タブメニュー  ⇒ [SSH(SCP)サーバ SSH(SCP)サーバ設定] の順にタップします。



SSH (SCP) サーバの IP アドレスを設定します。

ログイン時のアクセスフォルダフォルダを設定します。

SSH(SCP)サーバにログインする為のアクセス ID とパスワードを設定します。

画面下タブメニュー  ⇨ [SSH(SCP)サーバ アクセス ID/PW 設定] の順にタップします。



SSH(SCP)サーバにアクセスするためのユーザ ID を設定します。

SSH(SCP)サーバにアクセスするユーザ ID に対するパスワードを設定します。

SSH(SCP)サーバのネットワークポート番号は通常 22 ですが、レンタルサーバ事業者や SSH(SCP)サーバの運営方針でポート番号を変えている場合もあります。

ポート番号を変えている場合は、画面下タブメニュー  ⇨ [SSH(SCP)サーバ SSH(SCP)サーバ詳細設定] の順にタップして設定を行います。

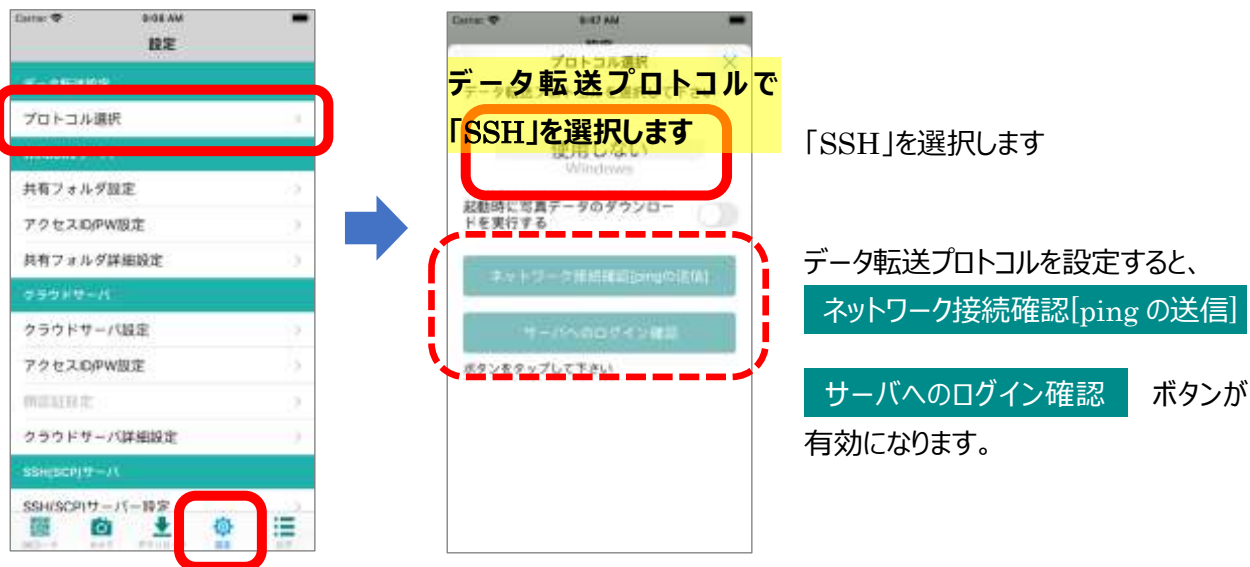


SSH(SCP)サーバのネットワークポート番号を設定します。

SSH(SCP)サーバのネットワークポート番号は各施設のネットワーク管理者にお問い合わせ下さい。

データ転送に使用するプロトコルにクラウド接続を使用することをアプリに設定します。

画面下タブメニュー [設定] ⇨ [データ転送設定 プロトコル選択] の順にタップします。



SSH(SCP)サーバ接続確認

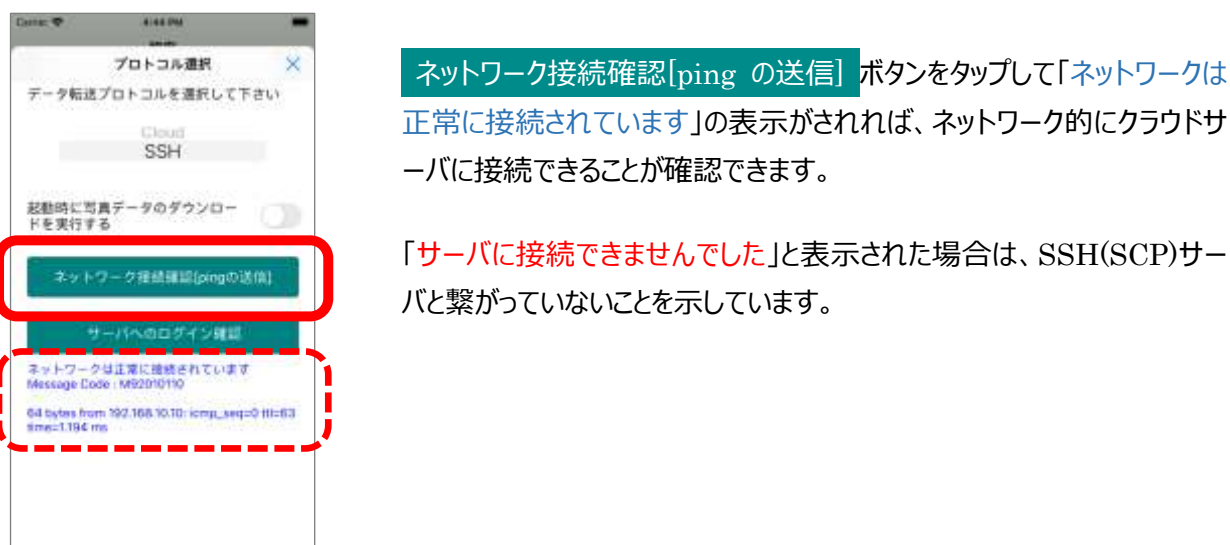
SSH(SCP) サーバへの接続が正しく行われるか確認を行うことができます。確認方法として 2 種類の確認ボタンを用意しています。

ネットワーク接続確認 : SSH(SCP)サーバまでのネットワークに正しく接続できるか確認を行います。

サーバへのログイン確認 : SSH(SCP)サーバのログイン確認を行います

ネットワーク接続確認

無線 LAN やルータを経由して SSH(SCP)サーバに接続できるか確認を行います。



エラーの原因として、以下の要因が考えられます。

- ・スマホの Wifi 接続が有効になっていない。
- ・「SSH(SCP)サーバ設定」で設定した SSH(SCP)サーバの IP アドレスが違う。
- ・ローカルネットワークからインターネットに接続できる構成になっていない（レンタルサーバ事業者の場合）。

サーバへのログイン確認

ネットワーク接続確認で正常に接続できていることが確認できれば、SSH(SCP) サーバへのアクセス確認を行います。



サーバへのログイン確認 ボタンをタップして「SSH(SCP)サーバに正常にログインできました」の表示がされれば、SSH(SCP) サーバへのアクセスが可能であることが確認できます。

エラーが発生した場合、以下の要因が考えられます。

- ・SSH(SCP)設定のアクセスフォルダ設定が違っている。
- ・SSH(SCP)のログイン ID/パスワードが違っている。
- ・SSH(SCP)サーバの SSH ポート番号が違う。

顔写真の管理

アプリのカメラ機能を使った顔写真の撮影と画像の管理方法を示します。

顔写真表示

QRコード読み取り時、服薬対象者の顔写真を表示することができます。名前だけでなく視覚的に対象者を確認することができ、誤薬の防止につながります。

顔写真は誤薬チェッカーPro アプリのカメラ機能により、撮影します。

顔写真の画像データをサーバに転送することで、既存の写真データをアプリに取り込むことも可能です。



カメラ機能

カメラ機能を使って顔写真の撮影を行います。

画面下タブメニュー  [カメラ] をタップします。



写真を撮る対象者の名前をひらがなで入力します。

キーボードから入力する以外に、対象者の QR コードがある場合は QR コードを読み取ることで名前を入力することもできます。

写真を撮る ボタンをタップするとカメラが起動します。



画面のピンチアウト（２本指を使って画面拡大）を行って、青色のフレームに合わせた状態で顔写真を撮ります。上や横を向いた写真を避けて、真正面からの撮影を行います。

※顔認証を利用する場合は、カメラで撮影したデータをオリジナルデータとして AI データを生成します。ここで撮影した顔写真の品質が悪いと認証精度が悪くなる場合があります。



顔写真を撮ったら画面右下の「写真を使用」をタップします。



名前の入力と写真の撮影が完了すると **登録** ボタンが有効となります。

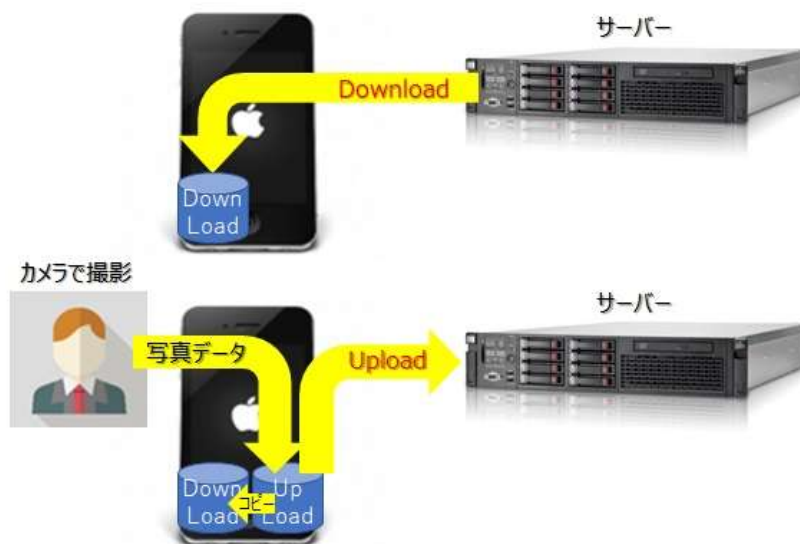
登録 ボタンをタップすると、写真が Upload フォルダに保存され、写真の登録が完了します。

画像ファイル管理

端末毎にカメラで写真を取ることもできますが、端末の台数が多い場合は、作業の手間がかかるので、サーバに接続し、写真データをダウンロードすることができます。



サーバからの写真データは端末アプリ内の Download フォルダに保存されます。又カメラで撮影したデータは UpLoad フォルダに保存され、Download フォルダにコピーされます。サーバへのアップロードは、デフォルトでは UpLoad フォルダのデータのみ転送されます。



写真データのアップロードとダウンロード

端末で撮った写真をサーバにアップロードし、別の端末ではサーバの写真をダウンロードすることができます。

写真データのアップロード

画面下タブメニュー  をタップします。



サーバに接続するために、ネットワークに接続します。

接続の方法は [「ネットワーク接続」](#) を参照下さい。

アップロード ボタンをタップすると、サーバに Upload フォルダの写真データをアップロードします。

※アップロードできる写真データは自端末で撮影した写真のみです。
ダウンロードした写真（Download フォルダの写真データ）はアップロードするには、[「アップロードデータの切り替え」](#)を行って下さい。

写真データのダウンロード

画面下タブメニュー  をタップします。



サーバに接続するために、ネットワークに接続します。

接続の方法は [「ネットワーク接続」](#) を参照下さい。

ダウンロード ボタンをタップすると、サーバから写真データをダウンロードします。

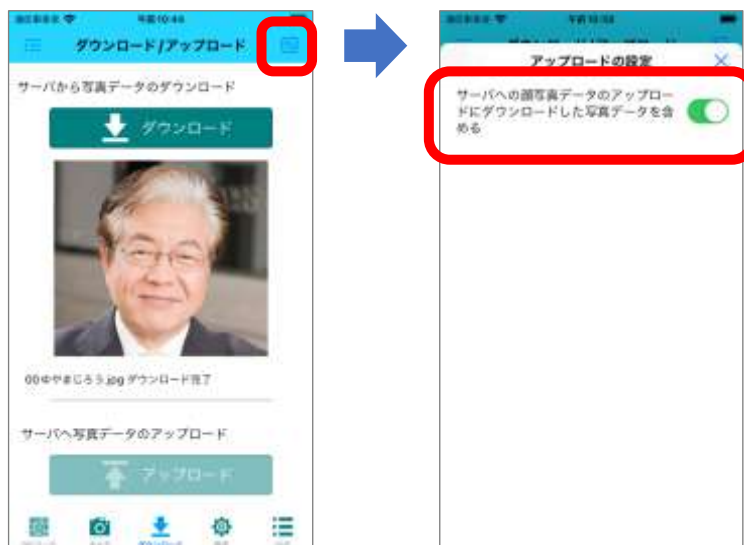
※端末内にサーバと同一のファイルが存在する場合、そのファイルはダウンロードしません。サーバの写真データが端末の Download フォルダの写真データと同じ状態で **ダウンロード** ボタンをタップすると、「ダウンロードするファイルは存在しません」と表示します。

アップロードデータの切り替え

通常は自端末で撮った写真のみをサーバにアップロードしますが、サーバからダウンロードした写真も含めてアップロードすることができます。複数のサーバでの運用や、新たなサーバへ写真データを転送する際に利用します。

写真データのアップロードデータ切替

画面右上アイコン [] をタップすると、アップロードの設定画面が表示されます。



サーバへの顔写真データのアップロードにダウンロードした写真データを含める場合は、スイッチをオンにします。

オフにした場合は、自端末で撮影した写真のみアップロードされます。

写真データの確認

端末で撮った写真やダウンロードした写真を確認することができます。

「ダウンロード/アップロード」の画面左上のアイコンをタップすると画像ファイルの確認画面が表示されます。



顔写真と名前及び格納フォルダ名がリスト表示されます。

ダウンロードしたデータは download と表示され、端末で撮影した写真は、download + upload と表示されます。



リストの項目をタップすると詳細情報が表示されます。

顔写真とファイルの詳細情報を表示します。

写真削除 ボタンをタップすると端末内の個別のデータを削除することができます。

フォルダの全データを削除する場合は、画面下タブメニュー  [設定] ⇨ [システムファイル管理] をタップしてファイルの削除を行って下さい。

対象者の顔認証

AI を利用した顔認証の方法を示します。

服薬、配食対象者の顔認証

服薬、配食対象者に QR コードを持たせることができない場合には、対象者の QR コードを読み取る代わりに顔認証を用いて本人確認を行うことができます。



服薬対象者に QR コードを持たせる事ができない場合でも、顔写真で本人の判定が可能です。
介護者の顔写真を登録しておけば、服薬対象者だけでなく、顔認証が利用できます。

※顔認証を利用する場合は、クラウドサーバーオプションが必須となります。

顔認証のしくみ

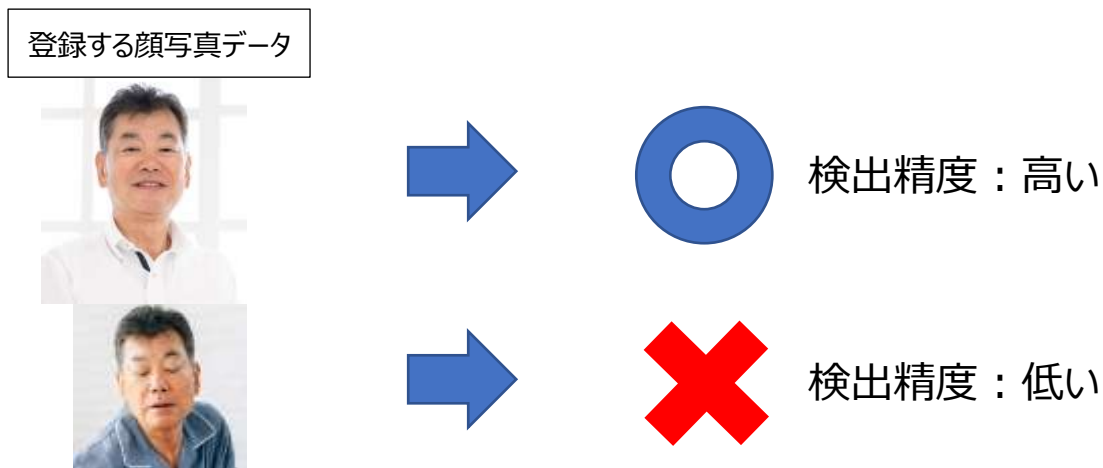
顔認証はクラウドサーバの AI システムで作成した顔認証データをダウンロードして、端末アプリで判定します。顔認証に必要な顔認証データの作成は、クラウドシステムで作成する必要があります。顔認証を行う顔写真データをクラウドにアップロードし、**顔認証データの生成とダウンロード** ボタンをタップするだけで完了します。



※顔認証データをダウンロードした後は、インターネットに接続する必要はありません。施設内の閉じたネットワークでご利用頂けるので、セキュリティ面でも安全です。

顔認証データの作成

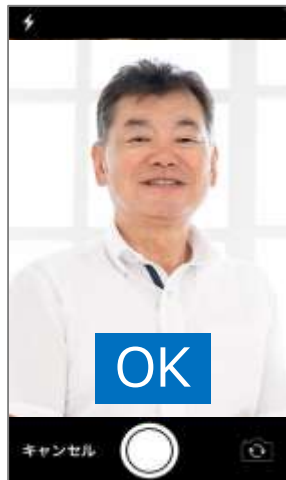
アプリのカメラ機能を使って撮った写真から顔認証の AI データを生成します。この為、顔写真の撮影品質が悪いと、生成される顔認証データも不正確な物になり、顔認証の精度が下がってしまいます。



顔認証写真データの撮影方法

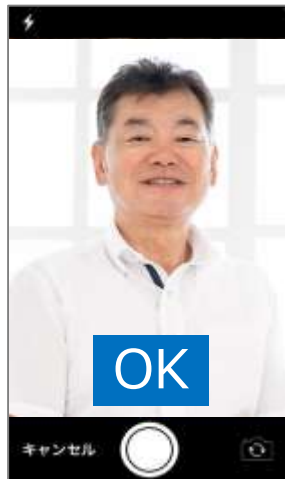
●顔写真を大きく

顔部分がはっきりと判るように写真を撮ります。顔の横幅が、画面横サイズの $1 / 3$ 程度となるように大きさを調整します。



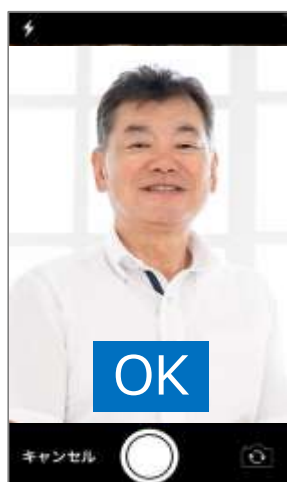
●真正面から

真正面を向いた写真を撮影してください。斜めからや下からの写真では顔の正しいデータを取得することができません。



●首を傾けない

首を傾けないで下さい。斜めになった写真では正しい顔認証データを作成することができず、検出精度が悪くなります。

**●逆光にならないように**

逆行にならないようにして下さい。コントラストが低いと顔データを認識できなくなり、検出精度が悪くなります。



顔認証データの作成方法

※顔認証の利用は契約時のクラウド及び顔認証オプションサービスの申し込みが必要です。

顔認証のデータ生成とダウンロードを行います。

画面下タブメニュー  ⇒ **「クラウドサーバ 顔認証設定」** をタップします。



あらかじめ、顔認証を用いる顔写真をクラウドにアップロードしておきます。

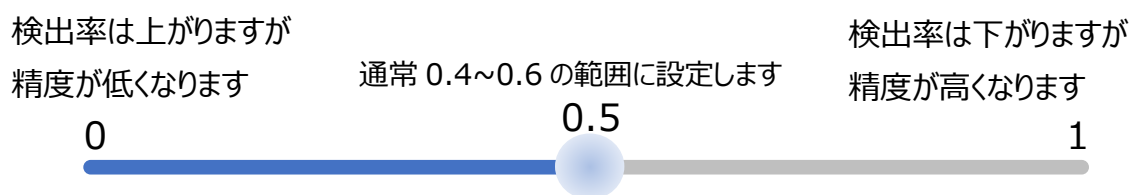
顔認証データの生成とダウンロード ボタンをタップすると、顔認証データの生成を実行し、生成されたデータのダウンロードを行います。

※顔認証データの生成は数十秒から数分かかる場合があります。処理中はアプリを終了させないでください。

一度、顔認証データの生成を実行すると、サーバにデータが保存されます。再度ダウンロードする場合や、他の端末で顔認証データをダウンロードする場合は、**顔認証データのダウンロード** ボタンをタップするだけでダウンロード可能です。

顔認証の判定精度

顔認証データによる判定は、カメラによって撮影された顔写真データに登録されたデータの中から最も顔の特徴に近いデータを AI が抽出します。このため、顔認証データに登録されていない人の判定を行うと、最も特徴の近いデータを結果として出力します。そこで出力された結果が判定される写真とどの程度似ているかの閾値を設けて登録外のデータであると判断します。この顔認証判定閾値は通常 0.5 程度で使用しますが、検出率が低い（対象者が見つからない場合）ときは、0.5 よりも小さい値で、判定精度が低い（対象者を間違える）ときは 0.5 よりも大きな値に設定します。



顔認証利用方法

※顔認証の利用は契約時のクラウド及び顔認証オプションサービスの申し込みが必要です。

顔認証データのダウンロードを実行すると顔認証ボタンが有効になります。 **顔認証** ボタンをタップすると、カメラが起動します。顔部分を検出すると緑色のフレームが表示されます。**必ず一人のみの顔部分が表示されるようにして下さい。**複数人の顔部分が含まれていると、異なる顔写真を認識し、正しく判定できない場合があります。



認識精度が悪い場合は候補写真の中から選択することができます。

画面下タブメニュー  ⇨ [クラウドサーバ 顔認証設定] をタップします。



「顔認証結果の候補を表示する」を有効にします。

シャッターボタンをタップすると、AI が認識した確度の高い順に写真を表示します。対象者の写真もしくは選択ボタンをタップすると対象者が決定します。



読み取りログの管理

QRコード読み取りログの表示に関して解説します。

ログ表示画面

ログ表示を行うには、画面下タブメニュー [ログ] をタップします。



ログは日付の降順又は昇順で表示されます。

画面左上のアイコンをタップすると、表示順序が反転します。

各ログはチェックモード種別、シーケンス名、QRコード読み取り日時、QRコードの読み取りデータ、判定結果を表示します。

リストの項目をタップすると、更に詳細情報が別画面で表示されます。



個別ログの詳細情報を表示します。

読み取った QR コードの詳細情報や介護者情報、顔写真等が表示されます。

読取り場所のログに関しては「[GPSで取得した位置情報の表示](#)」を参照下さい。

ログリストの表示設定を行います。シーケンス名での表示項目を制限と背景色の設定を行うことができます。



表示項目の制限：

ログリストで表示するシーケンス種別を個別に ON/OFF できます。

背景色の設定：

ログリストの背景色を変更できます。

※iPhone の OS バージョンが iOS14 以上で有効となります。

GPS で取得した位置情報の表示

画面下タブメニュー [設定] ⇨ [ログ設定] の順にタップして設定を行います。



「ログに位置情報を表示する」を有効にします

ホーム画面の左上に位置情報取得アイコンが表示されます。
アイコンの色によって位置情報取得状態を示しています



灰色表示：位置情報未取得もしくは位置情報取得中を示します。

青色表示：位置情報取得済を示します。アイコンをタップすると、取得済の位置情報を表示します。

緑色表示：位置情報取得していますが、最新の情報に更新中であることを示します。

位置情報使用の許可

誤薬チェッカーPro アプリをインストール後、初めて GPS による位置情報の取得を行うと、位置情報使用の許可を求めるアラートが表示されます。



位置情報の使用を許可するには「App の使用中は許可」をタップします。

「許可しない」をタップすると、位置情報の取得が出来なくなります。

間違って「許可しない」をタップしてしまった場合は iOS の設定画面からカメラへのアクセス許可を設定します。



サーバを使ったログデータの管理

ログデータをサーバに転送したり、サーバのログデータを取り込むことも可能です。

画面下タブメニュー  [設定] ⇨ [ログ設定] の順にタップして設定を行います。



ログをサーバに転送するには、ネットワークに接続する必要があります。接続の方法は [\[ネットワーク接続\]](#) を参照下さい。

サーバのログデータは csv 形式で保存されます。又通信量を制限するために、月単位のデータをサーバに送信します。この為、サーバに保存されるファイル名は、

log_(端末を示す名前)_(西暦)(月).csv
の形式になります。

端末を示す名前は変更可能ですが、複数の端末でサーバにログを送信する場合、名前の重複が起こらないように設定してください。同じ名前で登録した場合データの上書きが発生する場合があります。

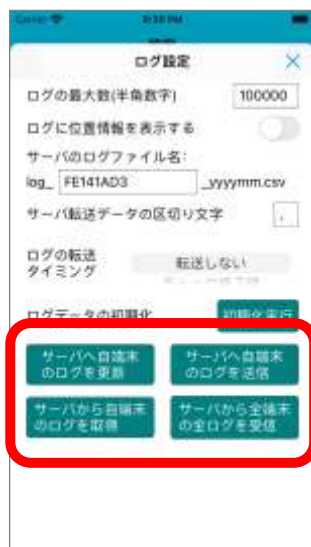
QR コード読み取り時のログをサーバに自動転送する場合、転送タイミングを設定する必要があります。転送タイミングは以下の中から選択します。

転送タイミング	説明	通信料
チェック終了時	お薬チェックや食事チェックのモード終了時（チェック終了ボタン押下時）にログを転送します。	通信量：少
シーケンス終了時	1 人の対象者に対する QR コード読み取りチェックが終了毎にログを転送します。	通信量：中
イベント発生時	QR コード読み取り等のイベントが発生する毎にログを転送します。	通信量：大

ログのデータ量

端末で保持するログは、読み取る QR コード種別や GPS の ON/OFF によって違いはありますが、一つのログで 150～250 バイトとなります。仮に 1 人に対する QR コード読み取りで 4 ログ、10 人の QR コードチェックを行い、一日 5 回のチェックを行ったとすると、一日に 200 ログがたまることになります。ログのサイズが平均 200 バイトとすると、一日にログデータサイズは 40K バイトとなります。さらに 1 年間だと 15M バイト程度となります。

端末のログデータをマニュアルでサーバに転送したり、サーバのログデータを端末に取り込む場合は以下のボタン操作を行います。



サーバへ自端末
のログを更新

端末内でサーバに未送信のログを送信し、サーバ側のログを最新データに更新します。

サーバへ自端末
のログを送信

端末内のログをサーバに送信します。サーバに同一名ファイルが存在する場合は上書きされます。

サーバから自端末
のログを取得

サーバから自端末のログを取得します。端末で保持しているログは上書きされます。

サーバから全端末
のログを受信

複数の端末を利用している場合、サーバに存在する全端末のログを取得します。端末で保持しているログは上書きされます。

※サーバからログを取得する場合、「ログの最大数」を充分余裕のある値に設定してください。「ログの最大数」を超えた値のログは取得されません。

統計情報の表示

配薬、配食、それぞれの日付、対象者、介護者の統計情報を表示します。サーバからログを取得することで、過去のデータ含めた統計情報の表示可能となります。[サーバを使ったログデータの管理]を参照下さい。

統計情報を表示するには、ログ画面で画面下タブメニューの [ログ] を**長押し**すると統計情報画面が表示されます。



配薬日付：

配薬日付単位の配薬統計情報を示します。

配薬対象者：

配薬対象者単位の配薬統計情報を示します。

配薬介護者：

配薬介護者単位の配薬統計情報を示します。

配食日付：

配薬日付単位の配食統計情報を示します。

配食対象者：

配薬日付単位の配食統計情報を示します。

配食介護者：

配薬介護者単位の配食統計情報を示します。

ユーザ定義日付：

日付単位のユーザ定義読み取り統計情報を示します。

ユーザ定義対象者：

対象者単位のユーザ定義読み取り統計情報を示します。

ユーザ定義介護者：

介護者単位のユーザ定義読み取りの統計情報を示します。

統計情報設定：

統計情報設定オプションを設定します。

配薬／配食／ユーザ定義日付の統計情報

画面下タブメニューの [ログ] を長押し、統計情報画面を表示します。 **配薬日付** ボタンをタップすると、配薬日付単位の統計情報が表示されます。 **配食日付** ボタンをタップすると配食日付単位の統計情報を表示します。又、 **ユーザ定義日付** ボタンをタップするとユーザ定義読み取りの日付単位の統計情報を表示します。ここでは、配薬日付単位の統計情報を例に示します。



配薬日付 ボタンをタップすると、年単位の統計情報を示します。

画面上部には、ログ内の全ての配薬回数、配薬時の OK 回数、NG 回数、NG 率を表示します。

年単位の配薬回数、配薬時の OK 回数、NG 回数、NG 率をリスト表示します。NG が 1 回以上あると背景色がオレンジになります。

※NG 率は小数点一桁で表示されます。この為 NG 率が 0.1 未満の場合は 0.0 表示となります。エラーがある場合は背景色を変えて表示します。

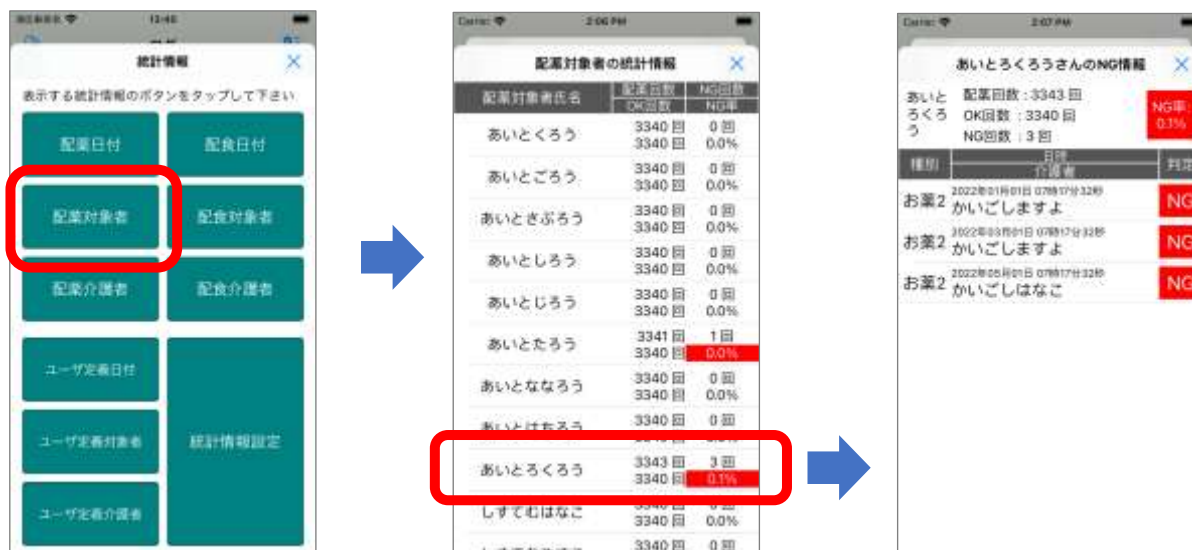
リストの項目をタップすると、月単位、日単位、一日分の情報を表示します。



月単位、年単位で NG 率が表示されるので、誤配率の推移や改善状況の確認が簡単にできます。

配薬／配食／ユーザ定義対象者の統計情報

画面下タブメニューの [ログ] を長押し、統計情報画面を表示します。 **配薬対象者** ボタンをタップすると、配薬対象者単位の統計情報が表示されます。 **配食対象者** ボタンをタップすると配食対象者単位の統計情報を表示します。又、 **ユーザ定義対象者** ボタンをタップすると配食対象者単位の統計情報を表示します。ここでは、配薬対象者単位の統計情報を例に示します。



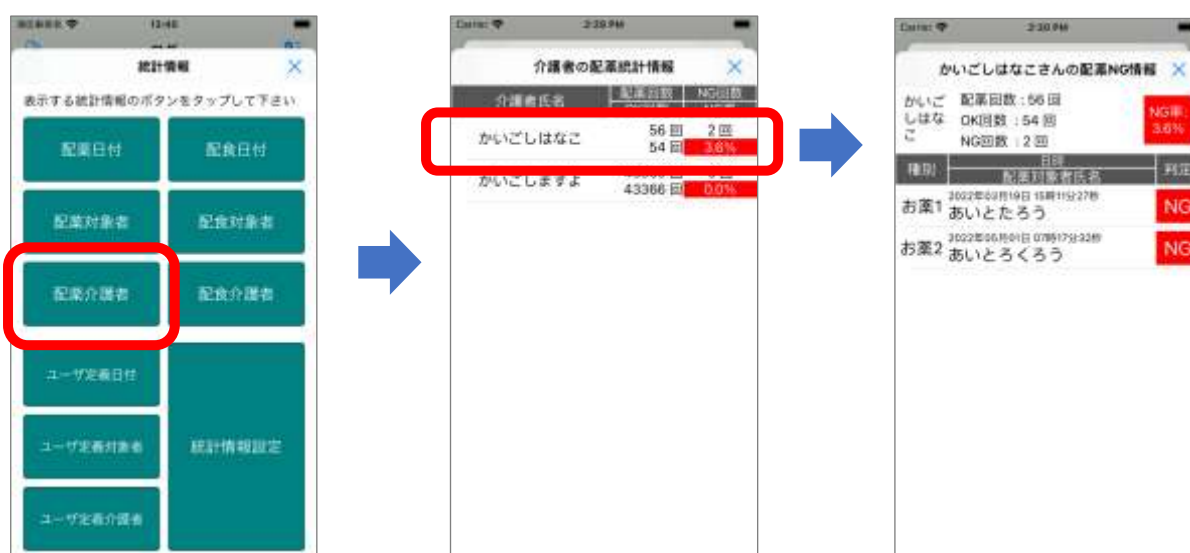
配薬対象者 ボタンをタップすると、配薬対象者毎の統計情報をリスト示します。
リストの項目をタップすると、対象者の配薬回数、OK 回数、NG 回数、NG 率と NG 情報を表示します。

※NG 率は小数点一桁で表示されます。この為 NG 率が 0.1 未満の場合は 0.0 表示となります。エラーがある場合は背景色を赤色で表示します。

配薬対象者毎の NG 率が表示されるので、配薬時に特に注意すべき対象者を知ることができます。

配薬／配食／ユーザ定義介護者の統計情報

画面下タブメニューの [] を長押し、統計情報画面を表示します。 **配薬介護者** ボタンをタップすると、配薬介護者単位の統計情報が表示されます。 **配食介護者** ボタンをタップすると配食介護者単位の統計情報を表示します。又、 **ユーザ定義介護者** ボタンをタップすると配食介護者単位の統計情報を表示します。ここでは、配薬介護者単位の統計情報を例に示します。



配薬介護者 ボタンをタップすると、配薬介護者毎の統計情報をリスト示します。
リストの項目をタップすると、対象者の配薬回数、OK 回数、NG 回数、NG 率と NG 情報を表示します。

※NG 率は小数点一桁で表示されます。この為 NG 率が 0.1 未満の場合は 0.0 表示となります。エラーがある場合は背景色を赤色で表示します。

配薬介護者毎の NG 率が表示されるので、服薬介護における介護者の意識の向上につなげることができます。

統計情報設定

画面下タブメニューの [] を**長押し**、統計情報画面を表示します。 **統計情報設定** ボタンをタップすると、統計情報設定画面が表示されます。



「配薬統計情報に配薬種別以外の配薬情報を含める」オプション：

このスイッチを有効にすると、お薬チェックモード以外でのお薬の QR コード読み取りで NG となった情報も配薬統計情報として組み入れます。例えば食事チェックシーケンスの中でお薬のチェックも行っている場合、NG となったお薬の読み取りも配薬統計情報の計算に組み入れます。スイッチが無効の場合は、お薬チェックモードだけでの、NG 情報を統計情報として表示します。

「配食統計情報に配食種別以外の配食情報を含める」オプション：

このスイッチを有効にすると、食事チェックモード以外での食事の QR コード読み取りで NG となった情報も配食統計情報として組み入れます。例えばお薬チェックシーケンスの中で食事のチェックも行っている場合、NG となった食事の読み取りも配食統計情報の計算に組み入れます。スイッチが無効の場合は、食事チェックモードだけでの、NG 情報を統計情報として表示します。

「ユーザ定義統計情報にユーザ定義種別以外のユーザ定義情報を含める」オプション：

このスイッチを有効にすると、ユーザ定義モード以外でのユーザ定義の QR コード読み取りで NG となった情報もユーザ定義統計情報として組み入れます。例えばお薬チェックシーケンスの中でユーザ定義のチェックも行っている場合、NG となったユーザ定義の読み取りもユーザ定義統計情報の計算に組み入れます。スイッチが無効の場合は、ユーザ定義モードだけでの、NG 情報を統計情報として表示します。

設定画面リファレンス

QRコードの読み取り設定

QRコード読み取りに関する設定を行います。

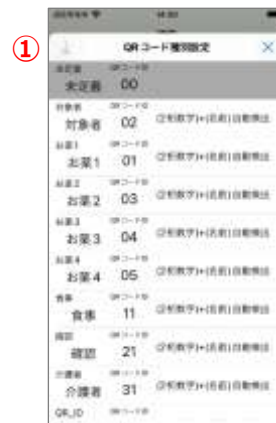
QRコード読み取り設定項目



- ① QRコードIDや読み取りのフォーマット等のQRコード種別の定義を行います。「[QRコード種別設定](#)」参照
- ② QRコード読み取りシーケンスを定義します。「[QRコード読み取りシーケンス](#)」参照
- ③ お薬の読み取りに関する設定を行います。「[お薬設定](#)」参照。
- ④ 食事のQRコード読み取りに関する設定を行います。「[お食事定](#)」参照。
- ⑤ 音声メッセージ等の通知のON/OFF設定を行います。「[通知設定](#)」参照
- ⑥ QRコード読み取りログに関する設定を行います。「[ログ設定](#)」参照

QRコード種別設定

QRコードIDや読み取りのフォーマット等のQRコード種別の定義を行います。



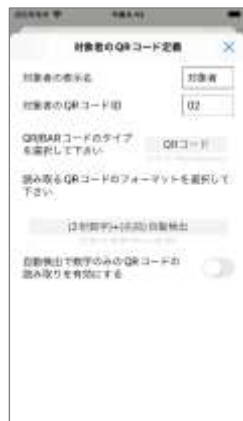
- ① QRコード種別設定データのダウンロード
QRコード種別設定に関する設定値をサーバからダウンロードします。
施設様で設定値をクラウドにセットしておくと、端末アプリでは、設定値のダウンロードボタンをタップするだけで、クラウドに保存されているデータを端末に設定することが可能です。
クラウドでのQRコード種別の設定方法は、『誤薬チェッカーPro クラウドアクセスガイド』を参照下さい。

QRコードの種別には、以下の種別があります。

- 未定義 : システム予約（定義できません）
- 対象者 : 対象者のQRコード
- お薬1～4 : お薬1～4のQRコード
- 食事 : 食事のQRコード読み取り
- 確認 : 完了確認を表示します。QRコードとしては存在しません。
- 介護者 : 介護者のQRコード読み取り
- QR_ID : QRID（先頭二桁の数字）に従って種別を判定します。
- 定義1～4 : ユーザ定義1～4のQRコード

リストの各項目をタップすると、設定画面が表示されます。

対象者



①対象者の表示名

QRコードの読み取り画面で表示される表示名を設定します。

②対象者のQRコードID

対象者のQRコードIDを指定します。他のQRコード種別のIDと重複しないようにして下さい。

③QR（バー）コードのタイプ

読み取るQR（バー）コードのタイプを指定します。

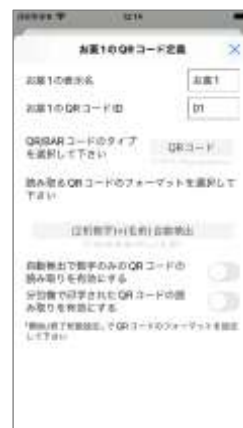
④QRコード読み取りフォーマット

QRコードの読み取りフォーマットを選択します。読み取りフォーマットの詳細に関しては、「[QRコードの内容](#)」を参照下さい。

⑤数字のQRコードの読み取りを有効にする

ID氏名変換を行うことで数字のみのQRコードから対象者の氏名に変換することができます。数字のみのQRコード読み取りを行う場合は有効を設定します。ID氏名変換に関しては「[服薬対象者のID情報設定](#)」を参照下さい。

お薬 1 ～ 4



①お薬 1（～ 4）の表示名

QRコードの読み取り画面で表示される表示名を設定します。お薬の種別により、内服薬、目薬等の名称に変更できます。

②お薬 1（～ 4）のQRコードID

お薬 1（～ 4）のQRコードIDを指定します。他のQRコード種別のIDと重複しないようにして下さい。

③QR（バー）コードのタイプ

読み取るQR（バー）コードのタイプを指定します。

④QRコード読み取りフォーマット

QRコードの読み取りフォーマットを選択します。
〔（2桁数字）+（名前）自動検出〕にすると、2桁の半角もしくは全角の数字、対象者のひらがな氏名を読み取ります。2桁数字、対象者のひらがな氏名の間に空白があっても無くてもかまいません。

数字のみのQRコードデータの場合は、数字⇒名前変換機能を使って名前に変換します。

読み取りフォーマットの詳細に関しては、「[QRコードの内容](#)」を参照下さい。

⑤数字のQRコードの読み取りを有効にする

ID氏名変換を行うことで数字のみのQRコードから配薬対象者の氏名に変換することができます。数字のみのQRコード読み取りを行う場合は有効を設定します。ID氏名変換に関しては「[服薬対象者のID情報設定](#)」を参照下さい。

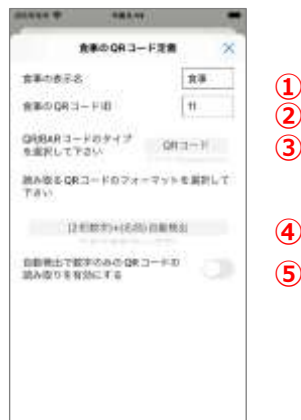
⑥ 分包機で印字された QR コード読み取り

分包機で印字された QR コード読み取りの有効／無効を設定します。設定方法の詳細に関しては、「[分包機で印字された QR コードの読み取り](#)」を参照下さい。

ら配食対象者の氏名に変換することができます。数字のみの QR コード読み取りを行う場合は有効を設定します。

ID 氏名変換に関しては「[服薬対象者の ID 情報設定](#)」を参照下さい。

食事



① 食事の表示名

QR コードの読み取り画面で表示される表示名を設定します。

② 対象者の QR コード ID

対象者の QR コード ID を指定します。他の QR コード種別の ID と重複しないようにして下さい。

③ QR（バー）コードのタイプ

読み取る QR（バー）コードのタイプを指定します。

④ QR コード読み取りフォーマット

QR コードの読み取りフォーマットを選択します。

[（2桁数字）+（名前）自動検出] にすると、2桁の半角もしくは全角の数字、対象者のひらがな氏名を読み取ります。2桁数字、対象者のひらがな氏名の間に空白があっても無くてかまいません。

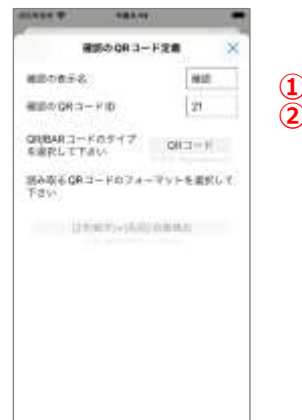
数字のみの QR コードデータの場合は、数字⇒名前変換機能を使って名前に変換します。

読み取りフォーマットの詳細に関しては、「[QR コードの内容](#)」を参照下さい。

⑤ 数字の QR コードの読み取りを有効にする

ID 氏名変換を行うことで数字のみの QR コードか

確認



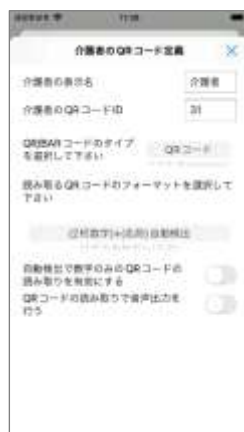
① 確認の表示名

QR コードの読み取り画面で表示される表示名を設定します。

② 確認の QR コード ID

確認の QR コード ID を指定します。確認の QR コードはありませんが、システムで ID が必要となります。他の QR コード種別の ID と重複しないようにして下さい。

介護者



①介護者の表示名

QR コードの読み取り画面で表示される表示名を設定します。

②介護者の QR コード ID

介護者の QR コード ID を指定します。他の QR コード種別の ID と重複しないようにして下さい。

③QR（バー）コードのタイプ

読み取る QR（バー）コードのタイプを指定します。

④QR コード読み取りフォーマット

QR コードの読み取りフォーマットを選択します。

[（2桁数字）+（名前）自動検出] にすると、2 桁の半角もしくは全角の数字、対象者のひらがな氏名を読み取ります。2 桁数字、対象者のひらがな氏名の間に空白があっても無くてもかまいません。

数字のみの QR コードデータの場合は、数字⇒名前変換機能を使って名前に変換します。

読み取りフォーマットの詳細に関しては、「[QR コードの内容](#)」を参照下さい。

⑤数字の QR コードの読み取りを有効にする

ID 氏名変換を行うことで数字のみの QR コードから介護者の氏名に変換することができます。数字のみの QR コード読み取りを行う場合は有効を設定します。ID 氏名変換に関しては「[服薬対象者の ID 情報設定](#)」を参照下さい。

⑥QR コードの読み取りで音声出力を行う

介護者の QR コード読み取り時に音声出力を行います。

QR_ID



①QR_ID の表示名

QR コードの読み取り画面で表示される表示名を設定します。

定義 1（～ 4）



①定義 1（～ 4）の表示名

QR コードの読み取り画面で表示される表示名を設定します。

②定義 1（～ 4）の QR コード ID

定義 1（～ 4）の QR コード ID を指定します。他の QR コード種別の ID と重複しないようにして下さい。

③QR（バー）コードのタイプ

読み取る QR（バー）コードのタイプを指定します。

④QR コード読み取りフォーマット

QR コードの読み取りフォーマットを選択します。

[（2桁数字）+（名前）自動検出] にする

と、2桁の半角もしくは全角の数字、対象者のひらがな氏名を読み取ります。2桁数字、対象者のひらがな氏名の間に空白があっても無くてもかまいません。

数字のみの QR コードデータの場合は、数字⇒名前変換機能を使って名前に変換します。

読み取りフォーマットの詳細に関しては、「[QRコードの内容](#)」を参照下さい。

⑤ 数字の QR コードの読み取りを有効にする

ID 氏名変換を行うことで数字のみの QR コードから介護者の氏名に変換することができます。数字のみの QR コード読み取りを行う場合は有効を設定します。

ID 氏名変換に関しては「[服薬対象者の ID 情報設定](#)」を参照下さい。

⑥ 分包機で印字された QR コード読み取り

分包機で印字された QR コード読み取りの有効／無効を設定します。設定方法の詳細に関しては、「[分包機で印字された QR コードの読み取り](#)」を参照下さい。

② お薬チェック設定 ボタン

お薬チェックのシーケンスを定義します。

③ 食事チェック設定 ボタン

食事チェックのシーケンスを定義します。

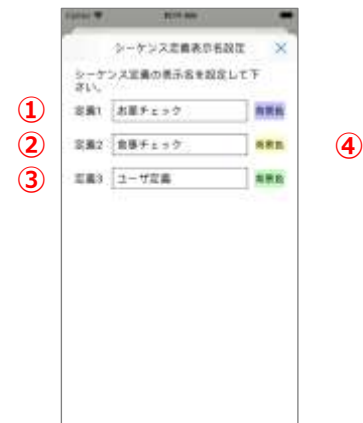
④ ユーザ定義設定 ボタン

ユーザ定義のシーケンスを定義します。

「[（お薬、食事、ユーザ定義）シーケンス設定](#)」参照。

シーケンス定義表示名設定

シーケンス定義名や背景色の変更を行います。



QR コード読み取りシーケンス

QR コード ID や読み取りのフォーマット等の QR コード種別の定義を行います。



① 名前を編集 ボタン

シーケンス定義名や背景色を変更できます。

「[シーケンス定義表示名設定](#)」参照

① シーケンス定義 1 の表示名

QR コードの読み取りモードを切り替え画面で表示されるお薬チェックモードの表示名を設定します。

初期設定時は「お薬チェック」です。

② シーケンス定義 2 の表示名

QR コードの読み取りモードを切り替え画面で表示される食事チェックモードの表示名を設定します。

初期設定時は「食事チェック」です。

③ シーケンス定義 3 の表示名

QR コードの読み取りモードを切り替え画面で表示されるユーザ定義モードの表示名を設定します。

初期設定時は「ユーザ定義」です。

④ 背景色設定

ログ表示画面のチェックモード種別の背景色を設定します。

（お薬、食事、ユーザ定義）シーケンス設定

お薬チェック、食事チェック、ユーザ定義のシーケンス設定を行います。



① 読み取りシーケンス設定のダウンロード

QR コード読み取りシーケンス設定に関する設定値をサーバからダウンロードします。

施設様で設定値をクラウドにセットしておくと、端末アプリでは、設定値のダウンロードボタンをタップするだけで、クラウドに保存されているデータを端末に設定することが可能です。

クラウドでの QR コード種別の設定方法は、『誤薬チェッカーPro クラウドアクセスガイド』を参照下さい。

お薬チェック、食事チェック、ユーザ定義のシーケンス初期設定は、以下の通りです。

お薬チェック：対象者 ⇨ お薬 1

食事チェック：対象者 ⇨ 食事

ユーザ定義：定義されていません。

各項目をタップすることでシーケンスの追加や変更、シーケンスの終了を設定する画面が表示されます。

① QR コード読み取りシーケンスの設定

QR コードの読み取りシーケンスの中に追加、変更したい QR コード種別を設定します。シーケンスを終了したい場合は「未定義」を設定します。

② ID の表示

「① QR コード読み取りシーケンスの設定」で選択した QR コード種別の QR コード ID を表示します。
「[QR コード種別設定](#)」で定義された値が表示されます。

③ 読み取りフォーマットの表示

「① QR コード読み取りシーケンスの設定」で選択した QR コード種別の QR コード読み取りフォーマットを表示します。「[QR コード種別設定](#)」で定義された値が表示されます

設定の方法は、「[お薬チェック読み取りシーケンスの変更](#)」、「[食事チェック読み取りシーケンスの変更](#)」を参照下さい。

お薬設定

お薬の読み取りに関する設定を行います。



- ① **ID 氏名ファイル設定** ボタン
ID 氏名ファイルに関する設定を行います。
「[ID 氏名ファイル設定](#)」参照。
- ② **開始/終了桁数設定** ボタン
分包機で印字された QR コードを読み取る場合の読み取りデータの桁数設定を行います。
「[開始終了桁数設定](#)」参照。
- ③ **お薬コード設定** ボタン
分包機で印字された QR コードを読み取る場合のお薬の配薬タイミングを示すコードを設定します。
「[お薬コード設定](#)」参照。
- ④ **お薬時間設定** ボタン
分包機で印字された QR コードを読み取る場合の配薬タイミングの時間帯を設定します。
「[お薬時間設定](#)」参照。
- ⑤ **オプション設定** ボタン
お薬設定に関するオプション項目の設定を行います。「[オプション設定](#)」参照。

ID 氏名ファイル設定

ID 氏名ファイルに関する設定を行います。



- ① **ID 氏名 CSV ファイル名**
ID 氏名 CSV ファイル名を設定します。
- ② **CSV ファイル区切り文字**
CSV ファイルのデータ区切り文字を入力します。通常の CSV ファイルの区切り文字は「 , 」です。
- ③ **ダウンロードしたデータを連結する。**
有効にすると、現在アプリで保持している ID 氏名データにダウンロードしたデータを追加します。無効の場合は、保持しているデータを消去してからデータをダウンロードします。
- ④ **起動時の ID 氏名 CSV ファイルダウンロード**
有効を設定すると、アプリの起動毎にサーバから CSV ファイルをダウンロードします。
[データ転送設定 プロトコル選択] でデータ転送プロトコルが選択されている必要があります。
- ⑤ **開始時の ID 氏名 CSV ファイルダウンロード**
有効を設定すると、お薬の読み取り開始ボタン押下でサーバから CSV ファイルをダウンロードします。
- ⑥ **ID に文字を許容する**
有効を設定すると、お薬の読み取り開始ボタン押下でサーバから CSV ファイルをダウンロードします。
- ⑦ **ID 氏名 CSV ファイルダウンロード** ボタン
ボタンをタップすると、サーバから ID 氏名 CSV ファイルをダウンロードします。
※ネットワーク接続されていないとボタンが有効になりません。

⑧ ID 氏名 CSV ファイルの編集 ボタン

端末内の ID 氏名 CSV データの編集や、データの追加ができます。

ID 氏名データが存在しない場合 ID 氏名データが存在する場合



①データの追加（+アイコン）

ID 氏名ファイルデータを追加します。

②データの編集

既存のデータを編集するには、リストの項目をタップします。

ID 氏名データの追加



ID 氏名データの編集



①QR コードの ID

数字で構成される ID データを入力します。

②ID に対応する氏名

ID に対応する名前をひらがなで入力します。

③削除 ボタン

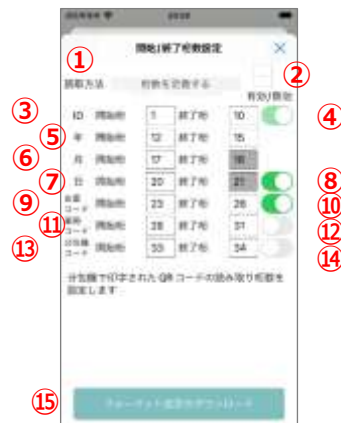
編集中の ID に対応する名前を削除します。ID 氏名データの追加時は、編集中のデータを保存せずに終了します。

④ 追加 ボタン

ID 氏名データの編集画面から ID 氏名データの追加画面に遷移します。

開始/終了桁数設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、桁数を指定してデータを読み取る方法です。



①読み取り方法

桁数を定義する を指定すると、QR コードのデータを、桁数を指定して読み取ります。読み取り桁数を指定する画面が表示されます。

②区切り文字

データの区切り文字を設定します。読み取り方法で、桁数を定義する を指定すると、無効となり入力できません。

③ID 開始/終了桁

服薬対象者の ID 情報を示す開始桁数/終了桁数を指定します。上記のような場合、開始桁数は 1、終了桁数は 10 となります。

④ID 有効/無効設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、ID の有効/無効設定を行います。ID 読み取りは必須で、無効にはできません。

⑤年開始/終了桁

服薬対象日の年部分の開始桁数/終了桁数を指定します。上記の様な場合、開始桁数は 12、終了桁数は 15 となります。

⑥月開始桁

服薬対象日の月部分の開始桁数を指定します。
上記の様な場合、開始桁数は 17 となります。

⑦日開始桁

服薬対象日の日部分の開始桁数を指定します。
上記の様な場合、開始桁数は 20 となります。

⑧年月日有効/無効設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、年月日チェックの有効/無効設定を行います。

⑨お薬コード開始/終了桁

服薬タイミングを示すお薬のコードの開始桁数/終了桁数を指定します。上記の様な場合、開始桁数は 23、終了桁数は 26 となります。

⑩お薬コード有効/無効設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、お薬コードの有効/無効設定を行います。

⑪薬局コード開始/終了桁

薬局コードを示す開始桁数/終了桁数を指定します。

⑫薬局コード有効/無効設定

薬局で印字された QR コードを読み取る場合、薬局コードの有効/無効設定を行います。

⑬分包機コード開始/終了桁

分包機コードを示す開始桁数/終了桁数を指定します。

⑭分包機コード有効/無効設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、薬局コードの有効/無効設定を行います。

⑮ フォーマット設定のダウンロード ボタン

QR コードフォーマット（開始/終了桁数設定値）をサーバからダウンロードします。

薬局様で設定値をクラウドにセットしておくと、端末アプリでは、設定値のダウンロードボタンをタップするだけで、クラウドに保存されているデータを端末に設定することが可能です。

読み取り順序設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、読み取り位置を指定してデータの読み取る方法です。



服薬対象者の ID 情報	服薬対象日	服薬タイミング
0000000113	2022/03/01	0068
区切り桁	1 番目	2 番目
		3 番目

①読み取り方法

(半角), 区切り文字列 半角空白区切り文字列 区切り文字列を指定する を指定すると、QR コードのデータを、区切り文字で区切った文字列の順序を指定して読み取ります。区切り文字列の位置（桁）を指定する画面が表示されます。

②区切り文字

読み取り方法で、区切り文字列を指定するを指定した場合、設定した文字で区切られた文字列を抽出します。

③ID 区切り桁

服薬対象者の ID 情報を示すデータの位置（区切り桁）を指定します。上記の様な場合、区切り桁は 1 となります。

④ID 有効/無効設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、ID の有効/無効設定を行います。ID 読み取りは必須で、無効にはできません。

⑤日付区切り桁

日付を示すデータの位置（区切り桁）を指定します。上記の様な場合、区切り桁は 2 となります。

⑥日付データフォーマット

日付データのフォーマットを指定します。以下のフォーマットから選択できます。

フォーマット	データ例
yyyy/mm/dd	2022/03/01
yyyymmdd	20220301
yy/mm/dd	22/03/01
yymmdd	220301
mm/dd	03/01
mmdd	0301

自動判定 を選択すると、文字列の長さに応じて対応するフォーマットで読み取りを行います。

⑦日付有効/無効設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、日付チェックの有効／無効設定を行います。

⑧お薬コード区切り桁

服薬タイミングを示すお薬のコードの位置（区切り桁）を指定します。上記の様な場合、区切り桁は3となります。

⑨お薬コード有効/無効設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、お薬コードの有効／無効設定を行います。

⑩薬局コード区切り桁

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、薬局コードの位置（区切り桁）を指定します。

⑪薬局コード有効/無効設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、薬局コードの有効／無効設定を行います。

⑫分包機コード区切り桁

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、分包機コードを示すお薬のコードの位置（区切り桁）を指定します。

⑬分包機コード有効/無効設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合、分包機コードの有効／無効設定を行います。

⑭ フォーマット設定のダウンロード ボタン

QR コードフォーマット（開始／終了桁数設定値）をサーバからダウンロードします。

薬局様で設定値をクラウドにセットしておく、端末アプリでは、設定値のダウンロードボタンをタップするだけで、クラウドに保存されているデータを端末に設定することが可能です

お薬コード設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合のお薬の配薬タイミングを示すコードを設定します。



タイミングコードを入力するテキストボックスは、以下の条件で背景色が変わります

- ✓ 頓服（頓用）薬の場合は背景が青色になります。
- ✓ 同じ値のコードがある場合は背景が黄色になります。
- ✓ 同じ用法名称がある場合は背景が橙色になります。

①朝昼 食前/食後/食間 服薬タイミングコード
朝食 食前/食後/食間の服薬タイミングを示すコードを指定します。

②昼食 食前/食後/食間 服薬タイミングコード
昼食 食前/食後/食間の服薬タイミングを示すコードを指定します。

③夕食 食前/食後/食間 服薬タイミングコード
夕食 食前/食後/食間の服薬タイミングを示すコードを指定します。

④起床後/就寝前 服薬タイミングコード
起床後/就寝前の服薬タイミングを示すコードを指定します。

⑤ 定時薬 1 - 4 服薬タイミングコード

定時薬 1 - 4 の服薬タイミングを示すコードを指定します。

⑥ お薬コードに文字を許可する

お薬コード（用法コード）は通常、数字を使って表現されます。このスイッチを有効にすると、数字以外の英字や日本語文字を用法コードとして設定可能です。

※このスイッチを切り替えると既に保存されている用法コードデータを修正する必要となる場合があります。

⑦ お薬コードのダウンロード ボタン

お薬コードに関する設定値をサーバからダウンロードします。

薬局様で設定値をクラウドにセットしておくと、端末アプリでは、設定値のダウンロードボタンをタップするだけで、クラウドに保存されているデータを端末に設定することが可能です。

⑧ お薬コードの詳細設定 ボタン

お薬の用法に関して、服薬タイミングコード以外の設定を行うことができます。

詳しくは、『[お薬コードの詳細設定](#)』を参照下さい。

お薬コードの詳細設定

お薬の用法に関して、服薬タイミングコード以外の設定を行います。お薬コードは最大 79 個まで設定可能です（項目 1 ~ 15 はシステム予約で用法名称は変更できません）。



- ✧ 頓服（頓用）薬に設定されている項目は背景色が青色で表示されます。
- ✧ 複数のお薬コードが設定されている項目には右端に！マークが表示されます。

設定を行うお薬コードのボタンをタップします。



① 基本の用法コード設定ボタン

基本の用法コードを設定します。項目 1 ~ 15 はシステム予約で有効になっており、用法名称は変更できません

② 追加の用法コード設定ボタン

用法名称に対して、追加の用法コードを設定します。最大 8 個の追加設定を行うことができます。



①用法コードを有効にする

用法名称で選択した用法種別が有効となります。
追加の用法コード設定を有効にするには、基本の
用法コード設定が有効である必要があります。

②用法名称

設定を行う用法名称を選択します。基本の用法コ
ード設定でのみ選択可能です。
同一種別の用法を複数設定することができます。
但し用法コードは異なる値にしなければなりません。

③用法コード

用法名称に対応する用法コードを設定します。
同一の用法コードを複数の用法名称に割り当
ててはいけません。但し、分包機コードの設定が
無効な状態では、同一の用法コードを設定する
ことが可能です。

④頓服（頓用）薬に設定する

設定対象の用法を頓服（頓用）薬に設定し
ます。頓服（頓用）薬に設定された用法の
QRコードを読み取っても、日付と服用タイミ
ングの判定を行いません。

⑤薬局コードを設定する

薬局コードの判定を有効にします。このスイ
ッチを有効にすると薬局名が選択できるよう
になります。

⑥分包機コードを設定する

分包機コードの判定を有効にします。このスイ
ッチを有効にすると薬局名と分包機名が選
択できるようになります。

⑦薬局名

薬局コードもしくは、分包機コードの判定を有
効な場合の、用法名に対応する薬局名を選
択します。判定対象の分包機コードは、『[薬局/分包機コードの設定](#)』で設定された値となります。

⑧分包機名

分包機コードの判定を有効な場合の、用法名
に対応する分包機を選択します。判定対象の
分包機コードは、『[薬局/分包機コードの設定](#)』で設定
された値となります。判定対象の分包機コ
ードは、『[薬局/分包機コードの設定](#)』で設定された値とな
ります。判定対象の分包機コードは、『[薬局/分包機
コードの設定](#)』で設定された値となります。

お薬時間設定

分包機で印字された QR コードを読み取る場合の配薬タイミングの時間帯を設定します。項 1 ～ 15 に関しては、デフォルトの設定で初期設定の時刻で有効となっています。



- ✧ 頓服（頓用）薬に設定されている項目は背景色が青色で表示されます。
- ✧ 複数の時間帯が設定されている項目は行末に！が表示されます。
- ✧ 設定値に異常がある場合は、背景色が赤色で表示されます。

① お薬時間のダウンロード

お薬時間に関する設定値をサーバからダウンロードします。

施設様で設定値をクラウドにセットしておくと、端末アプリでは、設定値のダウンロードボタンをタップするだけで、クラウドに保存されているデータを端末に設定することが可能です。

クラウドでのお薬時間の設定方法は、『誤薬チェッカーPro クラウドアクセスガイド』を参照下さい。

設定する時間帯の項目をタップします。



① 基本お薬時間帯設定有効／無効

配薬タイミングにおける時間帯チェックの有効／無効を設定します。有効を設定すると、薬の QR コードが読み込み時、時間帯チェックを行い、異なる時間帯で読まれると NG 表示を行います。

② 開始時間

配薬タイミングにおける時間帯チェックの開始時刻を設定します。

③ 終了時間

配薬タイミングにおける時間帯チェックの終了時刻を設定します。

基本お薬時間帯設定で開始時間と終了時間を同一時刻に設定すると、頓服薬設定となり、背景色が青色で表示されます。

④ 追加 1 お薬時間帯設定

⑤ 追加 2 お薬時間帯設定

⑥ 追加 3 お薬時間帯設定

追加の時間帯チェックの設定を行います。追加お薬時間帯設定では、同一時刻の設定は許容されていません。同一時刻を設定すると、背景色が赤色となります。

オプション設定

お薬設定に関するオプション項目の設定を行います。



①中止理由ボタンの表示

このスイッチを有効にすると、QRコード読み取り中止時、中止理由を選択ダイアログを表示するボタンを表示します。

②NG理由ボタンの表示

このスイッチを有効にすると、QRコード読み取りでNGとなった場合にNG理由を選択するダイアログを表示するボタンを表示します。

③特定の日付を無視する

このスイッチを有効にすると、分包機で印字されたQRコードの特定の日付データを無視します。
頓服、頓用薬の服用する日付が決まっていないお薬に対して設定を行います。

④無視する日付

「特定の日付を無視する」オプションが有効な場合の無視する日付を設定します。ここで設定された日付に対してはQRコード読み取り時の日付チェックを行いません。

⑤中止理由候補のダウンロードボタン

サーバから中止理由候補のダウンロードを行います。「データ転送設定」の「プロトコル選択」でデータ転送プロトコルが選択されると有効になります。

⑥NG理由候補のダウンロードボタン

サーバからNG理由候補のダウンロードを行います。「データ転送設定」の「プロトコル選択」でデータ転送プロトコルが選択されると有効になります。

⑦薬局設定ボタン

薬局／分包機コードの設定を行います。

分包機コードを用いたシステムの運用方法に関しては、『お薬チェック』の[薬局/分包機コード](#)を参照ください。

薬局／分包機コードの設定を行います。設定する薬局のボタンをタップします。



① 薬局 1 ボタン

② 薬局 2 ボタン

③ 薬局 3 ボタン

④ 薬局 4 ボタン

薬局の分包機コードの設定を行います。対応する薬局のボタンをタップします。

⑤薬局コードに文字を許容する

薬局コードは通常、数字を使って表現されます。このスイッチを有効にすると、数字以外の英字や日本語文字を用法コードとして設定可能です。

※このスイッチを切り替えると既に保存されている用法コードデータを修正する必要がある場合があります。

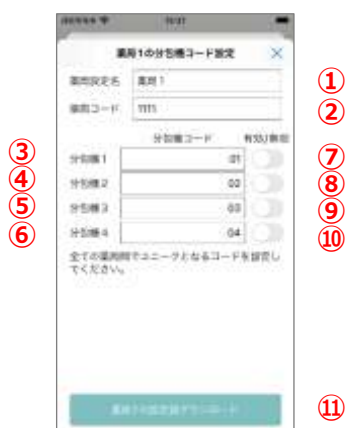
⑥分包機コードに文字を許容する

分包機コードは通常、数字を使って表現されます。このスイッチを有効にすると、数字以外の英字や日本語文字を用法コードとして設定可能です。

※このスイッチを切り替えると既に保存されている用法コードデータを修正する必要となる場合があります。

薬局 1 ～ 4 設定の分包機設定

各薬局で QR コードの印字を行う分包機に紐づけられたコードの設定を行います。



分包機 1 ～ 4 の分包機コードを利用する場合に、有効に設定します。

- ⑪ **薬局 1 / 2 / 3 / 4 設定値ダウンロード** ボタン
分包機薬コードに関する設定値をサーバからダウンロードします。「データ転送設定」の「プロトコル選択」でデータ転送プロトコルが選択されると有効になります。

薬局様で設定値をクラウドにセットしておくと、端末アプリでは、設定値のダウンロードボタンをタップするだけで、クラウドに保存されているデータを端末に設定することが可能です。

クラウドの設定に関しては、『クラウドアクセスガイド』の薬局システム管理を参照ください。

① 薬局設定名

薬局の名前を設定します。初期値は薬局 1 （～ 4 ）となっています。

② 薬局コード

薬局を特定する薬局コードを設定します。

薬局コードは薬局間においてユニークな値を設定する必要があります。

薬局コードを設定する際は、薬局間で同一値とならないように調整をお願いします。

③ 分包機 1 分包機コード

④ 分包機 2 分包機コード

⑤ 分包機 3 分包機コード

⑥ 分包機 4 分包機コード

分包機 1 ～ 4 を特定する分包機コードを設定します。分包機コードは薬局内でユニークな値を設定する必要があります。

⑦ 分包機 1 有効/無効

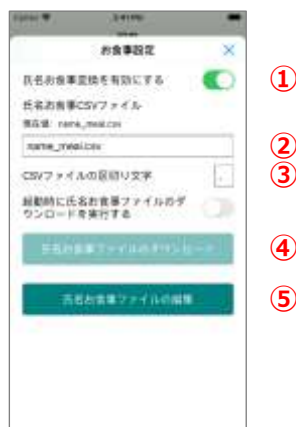
⑧ 分包機 2 有効/無効

⑨ 分包機 3 有効/無効

⑩ 分包機 4 有効/無効

お食事設定

食事の QR コード読み取りに関する設定を行います



- ① 氏名お食事変換を有効にする
氏名お食事変換の有効／無効を設定します。有効を設定すると、食事の QR コード読み取り時、配膳食種別が書かれた QR コードの読み取りが有効となります。
- ② 氏名お食事 CSV ファイル
氏名お食事 CSV ファイル名を設定します。
- ③ CSV ファイルの区切り文字
CSV ファイルのデータ区切り文字を入力します。通常の CSV ファイルの区切り文字は「 , 」です。
- ④ 起動時の ID 氏名 CSV ファイルダウンロード
有効を設定すると、アプリの起動毎にサーバから CSV ファイルをダウンロードします。
〔データ転送設定 プロトコル選択〕でデータ転送プロトコルが選択されている必要があります。
- ⑤ **氏名お食事ファイルダウンロード** ボタン
ボタンをタップすると、サーバから氏名お食事 CSV ファイルをダウンロードします。
※ネットワーク接続されていないとボタンが有効になりません。
- ⑥ **氏名お食事ファイルの編集** ボタン
端末内の氏名お食事 CSV データの編集や、データの追加ができます。

氏名-お食事データが存在しない場合 氏名-お食事データが存在する場合



- ① データの追加 (+アイコン)
氏名お食事ファイルデータを追加します。
- ② データの編集
既存のデータを編集するには、リストの項目をタップします。

氏名-お食事データの追加



氏名-お食事データの編集



- ① 配食対象者の名前
配食対象者の名前をひらがなで入力します。
- ② お食事種別
配食対象者に対応する食事種別を入力します。
- ③ **削除** ボタン
編集中の配食対象者の名前を削除します。氏名お食事データの追加時は、編集中のデータを保存せずに終了します。
- ④ **追加** ボタン
氏名お食事データの編集画面から氏名お食事データの追加画面に遷移します。

通知設定

音声メッセージ等の通知の ON/OFF 設定を行います。



①MP3（アラーム音）再生

QR コード読み取り完了時、アラーム音の ON/OFF を設定します。

②NG 時のバイブレーション

QR コード読み取り完了時、NG の場合のバイブレーション機能の ON/OFF を設定します。

③音声による読み上げ

QR コード読み取り完了時の名前の音声での読み上げ機能の ON/OFF を設定します。

④ 1 番目の読み取り結果の音声読み上げ

QR コード読み取りで最初に読み取った QR コードの情報を音声読み上げを行います。

⑤ボタンタップ時の振動

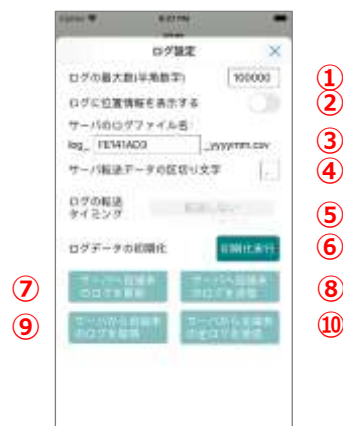
画面のボタンやアイコンタップ時に短い振動を起こします。

⑥ 通知設定テスト ボタン

アラーム音の再生、NG 時のバイブレーション、音声による読み上げ、ボタンタップ時の振動 のテストを行います。それぞれの機能をテストで動作させるには、①～③、⑤のスイッチを有効にする必要があります。

ログ設定

QR コード読み取りログに関する設定を行います。



①ログの最大数

端末で保持する QR コード読み取り件数の最大数を半角数字で設定します。

②ログに位置情報を表示する

GPS で読み取った位置情報をログに追加します。訪問介護や訪問看護での配薬場所の管理に利用できます。

③サーバのログファイル名

ログをサーバに転送する場合、サーバで保持するファイル名を示します。サーバに保存されるファイル名は、
log_(端末を示す名前)_(西暦)(月).csv
の形式になります。

複数の端末でサーバにログを送信する場合、名前の重複が起こらないように設定してください。同じ名前で登録した場合データの上書きが発生する場合があります。

④サーバ転送データの区切り文字

CSV ファイルのデータ区切り文字を入力します。通常の CSV ファイルの区切り文字は「 , 」です。

⑤ログの転送タイミング

QR コード読み取り時のログをサーバに自動転送する際の、転送タイミングを設定します。「転送しない」、「チェック終了」、「シーケンス終了」、「イベント発生時」の中から選択します。

⑥ ログデータの初期化 ボタン

端末で保持しているログデータを初期化します。
サーバのログファイルは初期化されません。

⑦ サーバへ自端末のログを更新 ボタン

端末内でサーバに未送信のログを送信し、サーバ側のログを最新データに更新します。

サーバのログファイルは初期化されません。

⑧ サーバへ自端末のログを送信 ボタン

端末内のログをサーバに送信します。サーバに同一名ファイルが存在する場合は上書きされます。

ネットワークに接続するとボタンが有効になります。

接続の方法は「[ネットワーク接続](#)」を参照下さい。

⑨ サーバから自端末のログを取得 ボタン

サーバから自端末のログを取得します。端末で保持しているログは上書きされます。

ネットワークに接続するとボタンが有効になります。

接続の方法は「[ネットワーク接続](#)」を参照下さい。

⑩ サーバから全端末のログを取得 ボタン

複数の端末を利用している場合、サーバに存在する全端末のログを取得します。端末で保持しているログは上書きされます。

ネットワークに接続するとボタンが有効になります。

接続の方法は「[ネットワーク接続](#)」を参照下さい。

データ転送設定

誤薬チェッカーPro はサーバを利用することで、画像やログの管理を行うことができます。データ転送設定画面でサーバへの接続切替や接続試験を行います。

データ転送設定項目



①ネットワーク接続の為のプロトコル選択やサーバへの接続確認を行います。「[プロトコル選択](#)」参照

プロトコル選択

ネットワーク接続の為のプロトコル選択やサーバへの接続確認を行います。



①プロトコル選択

サーバにアクセスするプロトコルを設定します。

- ・Windows 共有フォルダアクセス
- ・http クラウドアクセス
- ・SSH(SCP)アクセス

の中から選択します。

②アプリ起動時の画像ファイルダウンロード設定

アプリ起動時に写真データのダウンロードを自動で行うかを選択します。

③ ネットワーク接続確認 ボタン

プロトコル選択で選択したサーバの設定完了後、ボタンをタップすることで、端末からサーバに ping パケットを送信します。

IP ネットワーク的に接続されていることを確認することができます。(サーバへのログイン正当性の確認ではありません。)

④ サーバ接続確認 ボタン

プロトコル選択で選択したサーバの設定完了後、ボタンをタップすることで、端末からサーバへログイン試行を行います。ログイン ID/PW は「[Windows サーバ](#)」、「[クラウドサーバ](#)」、「[SSH\(SCP\)サーバ](#)」の「アクセス ID/PW 設定」を参照下さい。

Windows サーバ

Windows パソコンを用いたネットワーク共有フォルダの設定を行います。

※Windows パソコンの共有フォルダ設定方法に関しては『誤薬チェッカーPro サーバ設定ガイド』を参照下さい。

Windows サーバ項目

共有フォルダ設定



①
②
③



①
②

①Windows パソコンの IP アドレスや共有フォルダ名の設定を行います。「[共有フォルダ設定](#)」参照

②Windows 共有フォルダにアクセスするためのアクセス IDとパスワードの設定を行います。「[QRコード読み取りシーケンス](#)」参照

③Windows 共有フォルダにアクセスするためのオプション設定項目に関する設定を行います。「[お薬設定](#)」参照。

①IP アドレス

端末と同じネットワークに接続された Windows パソコンの IP アドレスを設定します。Windows パソコンの IP アドレスの調べ方は『誤薬チェッカーPro サーバ設定ガイド』Windows PC IP アドレスの確認方法を参照下さい。

②Windows 共有フォルダ名

Windows パソコンで誤薬チェッカーPro 用に共有設定を行った共有フォルダ名を入力します。

Windows 共有フォルダ ID/PW 設定



①ユーザ ID

アクセスアカウントの作成で作成した Windows のユーザ ID を入力します。

②Windows 共有フォルダ名

アクセスアカウントの作成で設定したパスワードを入力します。

Windows 共有フォルダ詳細設定



①写真フォルダ

Windows 共有フォルダにサブフォルダを作成して写真データを管理する場合、写真フォルダのフォルダ名を設定します。アプリでフォルダの作成は行いません。あらかじめ、Windows フォルダ上にサブフォルダを作成しておいて下さい。

②CSV、設定ファイルフォルダ

Windows 共有フォルダにサブフォルダを作成して CSV ファイルや、設定ファイルを管理する場合、サブフォルダ名を設定します。アプリでフォルダの作成は行いません。あらかじめ、Windows フォルダ上にサブフォルダを作成しておいて下さい。

③ログフォルダ

Windows 共有フォルダにサブフォルダを作成してログデータを管理する場合、ログフォルダの、フォルダ名を設定します。アプリでフォルダの作成は行いません。あらかじめ、Windows フォルダ上にサブフォルダを作成しておいて下さい。

④QR コード読み取りログのサーバ転送

QR コード読み取りログのサーバへの転送を設定します。ON にすると、QR コード読み取りログを Windows サーバへ転送します。

⑤ファイルの上書き設定

データアップロード時、Windows 共有フォルダ上に転送するファイルと同一ファイル名のファイルが存在する場合、上書きをおこなうかどうかの設定を行います。

クラウドサーバ

アイトシステムのクラウドシステムを用いたネットワークの設定を行います。
クラウドシステムの利用は契約時のオプションサービスの申し込みが必要です。

クラウドサーバ項目



- ①クラウドサーバのアクセス URL の設定を行います。
「[クラウドサーバ設定](#)」参照
- ②クラウドサーバにアクセスするためのアクセス ID とパスワードの設定を行います。「[アクセス ID/PW 設定](#)」参照
- ③顔認証のデータの生成やダウンロードを行います。
「[顔認証設定](#)」参照。
- ④クラウドサーバにアクセスするためのオプション設定項目に関する設定を行います。「[クラウドサーバ詳細設定](#)」参照。

クラウドサーバ設定



- ①クラウドサーバの URL
アイトシステムから通知のあったクラウドサーバの URL を入力します。最後の “/” の入力は不要です。

初期値：goyakuchecker.aitosys.co.jp

アクセス ID/PW 設定



- ①クラウドアクセス ID
アイトシステムから通知されたクラウドアクセス ID を入力します。

②クラウドアクセスパスワード

アイシステムから通知されたクラウドアクセスユーザ ID に対するパスワードを入力します。

顔認証判定閾値は通常 0.5 程度で使用しますが、検出率が低い（対象者が見つからない場合）ときは、0.5 よりも小さい値で、判定精度が低い（対象者を間違える）ときは 0.5 よりも大きな値に設定します。

顔認証設定



① 顔認証データの生成とダウンロード ボタン

クラウドにアップロードした写真データで顔認証データの生成を実行し、生成されたデータのダウンロードを行います。

※顔認証データの生成は数十秒から数分かかる場合があります。処理中はアプリを終了させないでください。

② 顔認証データダウンロード ボタン

クラウドで生成した顔認証データのダウンロードを行います。

③ 起動時に顔認証データのダウンロードを実行する

アプリの起動時にクラウドで生成した顔認証データのダウンロードを行います。

④ 顔認証結果の候補を表示する

顔認証の判定結果の候補を表示する画面を表示し、アプリの利用者が対象者の選択を行います。

⑤ 顔認証の対象者判定閾値

顔認証により出力された結果が対象者と判定する閾値を 0 ～ 1 の間の値で設定します。

クラウドサーバ詳細設定



①ファイルの上書き設定

データアップロード時、クラウドサーバ上に転送するファイルと同一ファイル名のファイルが存在する場合、上書きをおこなうかどうかの設定を行います。

②QR コード読み取りログのサーバ転送

QR コード読み取りログのサーバへの転送を設定します。ON にすると、QR コード読み取りログをクラウドサーバへ転送します。

SSH(SCP)サーバ

SSH（SCP）サーバを用いたネットワークアクセスの設定を行います。

SSH(SCP)サーバ項目



①SSH(SCP)サーバ設定

SSH(SCP)サーバの IP アドレスやフォルダ名の設定を行います。

「[SSH\(SCP\)サーバ設定](#)」参照

②アクセス ID/PW 設定

SSH(SCP)サーバにアクセスするためのアクセス ID とパスワードの設定を行います。

「[SSH\(SCP\)サーバ ID/PW 設定](#)」参照

③SSH(SCP)サーバ詳細設定

SSH(SCP)サーバにアクセスするためのオプション設定項目に関する設定を行います。

「[SSH\(SCP\)サーバ詳細設定](#)」参照。

SSH(SCP)サーバ設定



①IP アドレス

SSH(CP)サーバの IP アドレスを入力して下さい。

②画像格納フォルダ名

SSH(SCP)サーバ上の画像格納フォルダを指定して下さい。

SSH(SCP)サーバ ID/PW 設定



①SSH(SCP)サーバログイン ID

SSH(SCP)サーバのログイン ID を入力します。

②SSH(SCP)サーバログインパスワード

SSH(SCP)サーバのログインパスワードを入力します。

SSH(SCP)サーバ詳細設定



⑥ファイルの上書き設定

データアップロード時、SSH(SCP)フォルダ上に転送するファイルと同一ファイル名のファイルが存在する場合、上書きをおこなうかどうかの設定を行います。

①SSH(SCP)サーバポート番号

SSH(SCP)サーバのアクセスポート番号を指定して下さい。

②写真フォルダ

SSH(SCP)フォルダにサブフォルダを作成して写真データを管理する場合、写真フォルダのフォルダ名を設定します。アプリでフォルダの作成は行いません。あらかじめ、SSH(SCP)フォルダ上にサブフォルダを作成しておいて下さい。

③CSV、設定ファイルフォルダ

SSH(SCP)フォルダにサブフォルダを作成してCSV ファイルや、設定ファイルを管理する場合、サブフォルダ名を設定します。アプリでフォルダの作成は行いません。あらかじめ、SSH(SCP)フォルダ上にサブフォルダを作成しておいて下さい。

④ログフォルダ

SSH(SCP)フォルダにサブフォルダを作成してログデータを管理する場合、ログフォルダの、フォルダ名を設定します。アプリでフォルダの作成は行いません。あらかじめ、SSH(SCP)フォルダ上にサブフォルダを作成しておいて下さい。

⑤QR コード読み取りログのサーバ転送

QR コード読み取りログのサーバへの転送を設定します。ON にすると、QR コード読み取りログをSSH(SCP)サーバへ転送します。

システム設定

アプリで管理するファイルの編集や削除を行います。

システム設定項目



- ① アプリで管理するシステムファイルの編集や削除を行う事が出来ます。「[システムファイル管理](#)」参照
- ② アプリで管理するシステムファイルの編集や削除を行う事が出来ます。「[システムファイル管理](#)」参照
- ③ アプリのインストールから 1 週間は無料で利用可能です。継続して利用する際の、シリアルコードを入力します。「[シリアルコード設定](#)」参照
- ④ 複数の端末をセットアップする際、マスタとなる端末の設定情報を他の端末にコピーすることで、セットアップ作業を短縮できます。「[設定値ダウンロード](#)」参照。

システムオプション設定

アプリ全体に関連するオプションを設定します。



①更新データのダウンロード設定

サーバに設定データや写真データ等の更新データがある場合、アプリ起動時又は開始ボタンタップ時にサーバの更新データをダウンロードします。サーバデータ更新時、自動でダウンロードする項目は以下の通りです。

- ・顔写真データ
- ・顔認証データ
- ・QRコード種別 CSV ファイル
- ・ID 氏名 CSV ファイル
- ・氏名食事 CSV ファイル
- ・QRコードシーケンス設定ファイル
- ・QRコード桁数設定ファイル
- ・用法コード設定ファイル
- ・QRコードお薬時間設定ファイル
- ・薬局 1 ～4 分包機コード設定ファイル
- ・中止理由候補ファイル
- ・NG 要因候補ファイル

このスイッチを有効にすると、各項目毎のダウンロードオプション（起動時のダウンロード、開始ボタン押下時のダウンロード）は無効になります。

②QRコード読み取り中止でメニューを表示

このスイッチを有効にすると、QRコード読み取り画面で、左下のキャンセルの文字をタップすると、読み取りのキャンセルメニューを表示します。キャンセルメニューの内容は以下の通りです。

一つ前に戻る : 一つ前のシーケンスに戻ります。
このまま継続 : 読み取り画面に戻ります。
中止 : 読み取りを中止して結果を表示します。

システムファイル管理

アプリで管理するシステムファイルの編集や削除を行います。



- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

⑥顔認証データファイルの削除 ボタン

ダウンロードした顔認証データファイルを削除します

⑦ 画像ファイルの確認 ボタン

端末内に保持する画像ファイルをリストで表示します。リストの各項目をタップすると、詳細情報を別画面で表示します。



①ダウンロードフォルダの削除 ボタン

ダウンロードフォルダ（ダウンロードした画像ファイル + 端末で撮影した画像ファイル）を削除します。

②アップロードフォルダの削除 ボタン

アップロードフォルダ（端末で撮影した画像ファイル）を削除します

③ID氏名 CSV ファイルの削除 ボタン

端末内に保持する ID 氏名 CSV ファイルを削除します

④通知メモ CSV ファイルの削除 ボタン

将来拡張用です。現在機能しません。

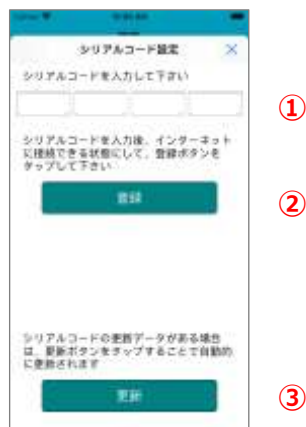
⑤氏名食事 CSV ファイルの削除 ボタン

端末内に保持する氏名食事 CSV ファイルを削除します。

シリアルコード設定

アプリのインストールから 1 週間は無料で利用可能です。継続して利用する場合は、シリアルコードを設定する必要があります。

※シリアルコードを入力する際は、端末をインターネットに接続できる状態にしてください。



① シリアルコード

はじめて誤薬チェッカーアプリを利用する場合は、アイトシステムから通知された 24 桁のシリアルコードを入力して下さい。

② 登録 ボタン

シリアルコード入力後、登録 ボタンをタップすることで登録が完了します。

③ 更新 ボタン

誤薬チェッカーアプリを利用中に継続利用を申請した場合、更新ボタンをタップすることで、更新されたシリアルコードが自動的に設定されます。

設定値ダウンロード

複数の端末をセットアップする際、マスタとなる端末の設定情報を他の端末にコピーすることで、セットアップ作業を短縮できます。



マスタとなる端末の設定情報をサーバに保存します。コピーする端末はサーバの設定だけを行い、設定情報の読み込みを行なうことで、セットアップが完了します。

① 設定値ファイル名

設定情報を保存するサーバの設定値ファイル名を指定します。

② 設定値の取り込み ボタン

コピーを作成する端末はこのボタンをタップすることで、サーバに保存された設定値情報を取り込みます。

③ 設定値の保存 ボタン

このボタンをタップすることで、マスタとなる端末の設定情報をサーバに保存します。

情報

アプリで管理する情報を表示します。

情報項目



①
②

- ① 誤薬チェッカーPro のアプリ情報を表示します。「[誤薬チェッカーPro について](#)」参照
- ② 誤薬チェッカーPro」のプライバシーポリシーを表示します。「[プライバシーポリシー](#)」参照

誤薬チェッカーPro について



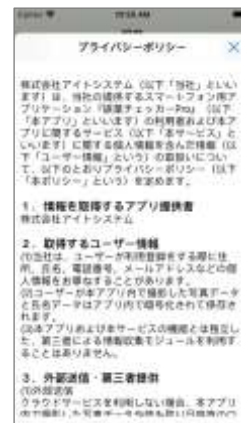
①
②
③
④
⑤
⑥

- ① アプリ版数
インストールされている「誤薬チェッカーPro」の版数を表示します。

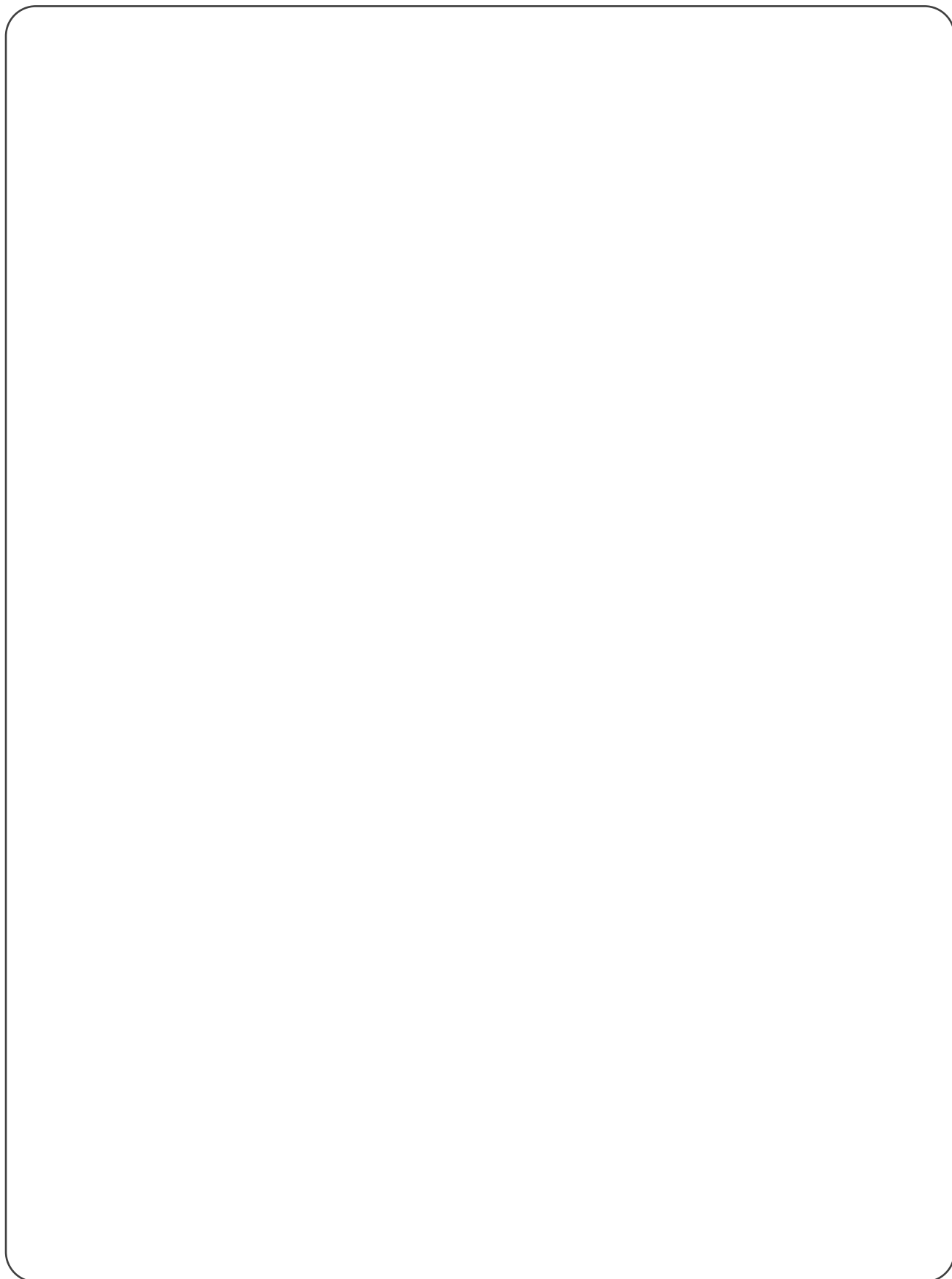
- ② インストール時版数
誤薬チェッカーPro がインストールされた時の版数を表示します。
- ③ インストール日付
誤薬チェッカーPro がインストールされた日付を表示します。
- ④ 有効期限
インストールされている「誤薬チェッカーPro」の有効期限を表示します。
- ⑤ ログの数
保持している QR コード読み取りログの数を表示します。
- ⑥ 設定回数
複数の端末間での、同一アプリ版数のシリアルコードの設定回数を示します。

プライバシーポリシー

「誤薬チェッカーPro」のプライバシーポリシーを表示します。



メ



● **アイトシステムのホームページ <http://www.aitosys.com>**

各種製品情報、サポート案内等の情報を提供しております。

● **製品に関するご質問・ご相談**

製品に関するご質問・ご相談に電話お答えします。

【電話番号】 0800-200-2790 （通話料無料）

上記電話番号を利用できない場合や携帯電話等からは、0773-45-3166に連絡をお願いします。

※サポート受付時間：祝日を除く平日(月曜～金曜) 9時から 17 時まで

製品に関するご質問・ご相談にメールでお答えします。

【サポート専用メールアドレス】 support@aitosys.com

ご質問・ご相談の際は購入品のシリアル番号及びアプリ版数お知らせください。アプリ版数は「設定」メニューの「誤薬チェッカーについて」を参照下さい。

使用した音素材: OtoLogic(<https://otologic.jp>)

本ページの記載の情報は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

最新の情報はアイトシステムのホームページ(<http://www.aitosys.com>)にてご確認ください。

株式会社アイトシステム 〒620-0055 京都府福知山市篠尾新町 4-1-1 アミックビル 3F